

建築科

- ・履修科目表
- ・卒業・進級要件
- ・履修判定試験および評価方法
- ・シラバス（授業概要）

ディプロマポリシー

計画・法規・構造・施工を理解した上で、木造住宅・鉄筋コンクリート造建築の計画ができる技術者

<https://tec.ttc.ac.jp/departments/architecture/diploma-policy>



学校法人 小山学園

専門学校 東京テクニカルカレッジ

履修科目履修時間表 建築科 (実務経験のある教員が担当する科目)
2024年度入学生用
東京テクニカルカレッジ

作成日 2018/3/25
変更日 2018/3/25
※「1履修時間」は実時間で45分とする。また、「1授業時間(1コマ)」は2履修時間(実時間で90分)とする。
※履修時間を単位数で換算する場合は、講義科目にあっては15履修時間、実習科目にあっては30履修時間をそれぞれ1単位として換算する。

分類	大講義科目	中一般教養基礎講義	番号	必修 選択 ◎	教育科目名	単位	1年次					2年次					実務 経験 ※1	備考	
							1期	2期	3期	4期	5期	1期	2期	3期	4期	5期			
講義科目	一般教養基礎講義		01	◎	専門導入1	1	15												
			02	◎	専門導入2	1	15												
			03	◎															
			01	◎	建築計画1	1		15									○		
			02	◎	建築史1	1			15								○		
			03	◎	建築史2	1				15							○		
			04	◎	建築史3	1					15						○		
			05	◎	建築概論	1	15					15					○		
			06	◎	環境工学1	1		15											
			07	◎	環境工学2	1			15										
			08	◎	建築設備1	1				15									
			09	◎	建築設備2	1					15								
			10	◎	構造力学1	1				15									
			11	◎	構造力学2	1					15								
			12	◎	建築一般構造1	1		15									○		
			13	◎	建築材料1	1			15								○		
			14	◎	生産管理	1				15							○		
			15	◎	建築施工1	1				15							○		
			16	◎	建築法規1	1		15									○		
			17	◎	建築法規2	1			15								○		
			18	◎	建築法規3	1				15							○		
			19	◎	建築法規4	1					15						○		
			20	◎	設計製図演習1	2		30											
			21	◎	設計製図演習2	2			30								○		
	22	◎	設計製図演習3	1				15							○				
	23	◎	設計製図演習4	1					15						○				
	24	◎																	
	応用講義			01	◎	建築計画2	1					15					○		
				02	◎	建築計画3	1						15					○	
				03	◎	建築設備3	2							30					
				04	◎	構造力学3	1						15						
				05	◎	構造力学4	1								15				
				06	◎	構造力学5	1	15								15			
				07	◎	建築一般構造2	1						15					○	
				08	◎	建築一般構造3	1							15				○	
				09	◎	建築一般構造4	1								15			○	
				10	◎	建築施工2	1						15					○	
				11	◎	建築施工3	1							15				○	
				12	◎	建築材料2	1							15				○	
				13	◎	建築材料3	1								15			○	
				14	◎	建築概論	2										30		○
				15	◎	建築法規5	1						15					○	
				16	◎	建築施工4	6									90		○	
				17	◎	設計製図演習5	1						15					○	
				18	◎	設計製図演習6	1							15				○	
				19	◎	設計製図演習7	1								15			○	
				20	◎	建築士総合講座1	2									30		○	
21				◎	建築士総合講座2	2										30	○		
22				◎	建築士総合講座3	2										30	○		
23				◎															
実習科目	基礎実習		01	◎	建築製図実習1	2	60										○		
			02	◎	建築製図実習2	2		60									○		
			03	◎	建築製図実習3	2			60								○		
			04	◎	建築製図実習4	1.5				45							○		
			05	◎	建築製図実習5	1.5					45						○		
			06	◎	建築立体造形実習1	1	30										○		
			07	◎	建築立体造形実習2	1		30									○		
			08	◎	建築立体造形実習3	1			30								○		
			09	◎	建築立体造形実習4	1				30							○		
			10	◎	建築立体造形実習5	1					30						○		
			11	◎															
	応用実習			01	◎	建築製図実習6	2					60					○		
				02	◎	建築製図実習7	2						60				○		
				03	◎	建築製図実習8	1.5							45			○		
				04	◎	建築製図実習9	1								30		○		
				05	◎	建築製図実習10	1									30	○		
				06	◎	建築立体造形実習6	1						30				○		
				07	◎	建築立体造形実習7	1							30			○		
				08	◎	建築士総合講座4	1									30	○		
	09	◎																	
	高度実習			01	◎	リアルジョブプロジェクト1	1		30										
				02	◎	リアルジョブプロジェクト2	1			30									
				03	◎	リアルジョブプロジェクト3	1				30								
04				◎	リアルジョブプロジェクト4	1					30								
05				◎	リアルジョブプロジェクト5	1						30				○			
06				◎	リアルジョブプロジェクト6	1							30			○			
07				◎	リアルジョブプロジェクト7	1								30		○			
08				◎	リアルジョブプロジェクト8	1									30	○			
09	◎																		
実務分野	研究		01	◎	測量実習1	1		30									○		
			02	◎	測量実習2	1						30							
			01	△	海外短期留学研修1	3		90											
			02	△	海外短期留学研修2	3							90						
			03	△	建築・インテリア海外研修1	3					90								
			04	△	建築・インテリア海外研修2	3									90				
			05	△	国内建築研修1	1						30							
			06	△	国内建築研修2	1										30			
			07	△	国内環境研修1	2					60								
08	△	国内環境研修2	2										60						
09	◎																		
行事	その他		01	○	フレッシュマン研修		12												
			02	○	学園祭準備・片付け						24					24			
			03	○	学園祭						16					16			
			04	○	就職ガイダンス1		8												
			05	○	就職ガイダンス2			8											
			06	○	就職ガイダンス3				8										
			07	○	就職ガイダンス4					8									
			08	○	就職ガイダンス5						8								
			09	◎															
期時間数(総単位数)							-	135	240	225	195	180	150	210	210	195	180		
学年必要履修時間数(総単位数)							-			975					945				
総必要履修時間数(総単位数)							94					1920							
選択科目履修時間数・単位数							-		90			180		90		180			
期総時間数(総単位数)							-	135	330	225	195	360	150	300	210	195	360		
学年総時間数(総単位数)							-			1245					1215				
総時間数(単位数:学外単位・自習室を除く)							112					2460							
実務経験を有する教員が担当する期時間数							-	45	165	180	135	120	135	180	165	180	180		
実務経験を有する教員が担当する総時間数(総必要履修時間数/割合)							-					1485(77%)						※実務経験を有する教員が担当している割合	

◎…必修科目(当該学科の全学生が卒業までに必ず履修しなければならない科目)
○…選択必修科目(一群の選択科目の中から指定された科目数を選択して履修しなければならない科目)
△…選択科目(学生が任意に選択して受講することができる科目)

・成績評価及び卒業要件

<履修評価（合否判定）の方法>

①科目の合否

本校では、科目の合否は原則的に履修判定試験のみでおこない、60%の理解度をもって合格とする。
履修判定試験は「筆記試験」・「実習試験」でおこなわれるが、作品制作やレポートなど普段の授業の中でおこなわれる提出物の評価を履修判定試験内で評価することがある。
その場合の評価の方法については、講義概要（コマシラバス）の中に明記される。

②未受験者・試験不合格者の処置

A：以下のものには追試をおこなう。

- 1.公認欠席（忌引き等）に該当する者が試験を受験しなかった場合。
 - 2.病気等で通院・入院・自宅安静をしており試験当日登校できない事由が証明できる者。
- 追試の時期は各科の科長が別途日程を定めて実施する。

B：試験に不合格になった学生及び正当な理由無しに未受験となった学生に対して、原則再試はおこなわない。

ただし、不合格となった科目の単位数に応じた枚数のチケットを取得した上で、担当教員の補習授業が終了した者については、再試をおこなう。
チケットの取得方法に関しては、別途細則で定める。

③履修判定試験の運営

履修判定試験を受験しようとする者は試験会場に5分以上前に入室し、机上に学生証など身分を示す物を提示する。
試験会場では、試験監督官の指示に従って行動する。
試験開始後20分以上経過した場合には、その試験の受験資格を失う。
試験中に監督官から不正行為を指摘された場合には直ちに教室から退室する。この場合は当該科目を不合格とする。

<成績評価およびその客観的な指標について>

履修判定試験の結果が100点～80点のものをA（合格）、79点～70点のものをB（合格）、69点～60点のものをC（合格）、59点以下のものをD（不合格）として成績評価とする。
このA～Dの評価を、A＝3点、B＝2点、C＝1点、D＝0点として各科目の成績を点数化のうえ合計し、総科目数で割り指標数値を算出して各科の成績分布の指標とする。

<進級について>

①進級

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度の履修科目を全て履修した場合に進級できる。

②準進級

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度までの履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、「履修時間表」に記載された卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えない場合は、次の学年に進級できるが、これを準進級とし進級者と区別する。

③留年

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度までの履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、「履修時間表」に記載された卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えた場合は留年となり、その年に取得した全ての単位が無効となり次年度同一学年で学習しなければならない。

④進級・準進級・留年の決定

進級・準進級・留年の最終判断は、進級公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

<卒業について>

①卒業

「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目を全て履修した場合に卒業できる。

②科目留年

卒業学年の学生は「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えない場合は、科目留年となる。

科目留年となった場合は、それまでに取得した全ての科目の単位数はそのままとなり、不合格となった科目のみ次年度再履修することで卒業することができる。

科目留年における在籍料・科目履修費用などを含めた事務的な手続きは別途細目で定める。

③留年

卒業学年の学生は「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えた場合は留年となり、その年に取得した全ての単位が無効となり次年度同一学年で学習しなければならない。

準進級者が留年した場合でも、準進級の原因となった当該年度以前に未履修となった科目について、当該科目の再履修免除はない。

④卒業・科目留年・留年の決定

卒業・科目留年・留年の最終判断は、卒業公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

No	3031101	科目コード	1010101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：小山学園では、卒業後にネットワークやパソコンを駆使したコミュニケーションのできる社会人になる事を目標に、情報リテラシー教育を行っています。	
年度	2024年度	学習内容：この科目では学内ネットワークを利用できるように設定し、その使用方法を理解します。また、インターネット社会における守らなければならない規則やマナーを身に着けます。	
学年	1年次		
期	1		
教科名	専門導入	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	専門導入1	01) 学内でPCを使う上でのルール・規則がわかる。	
単位	1	02) 推奨PCパソコンの各部名称や機能を理解して、Windows10の初期設定ができる。	
履修時間	15	03) 学内のネットワークに接続する事ができる。	
回数	8	04) ウィルスバスターをインストールして、アンチウィルスソフトを使う事ができる。	
必修・選択	必修	05) LotusNotesをセットアップして「学図情報」を見る事ができる。	
省庁分類	32_⑩その他	06) LotusNotesでメール・授業データベース・掲示板を使う事ができる。	
授業形態	講義	07) 学外（自宅）から学内ネットワークに接続するやり方がわかる。	
作成者	金澤 晃男	08) Chromeブラウザをインストールして、G Suiteの機能（メール・カレンダー・サイト等）を使う事ができる。	
教科書	情報リテラシー2024	09) iPhoneやAndroidでG Suiteの機能（メール・カレンダー・サイト等）を使う事ができる。	
確認者	野上 和裕	10) ウィルス対策・著作権等を理解し、ネットワーク社会でトラブルに合わない対策方法がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考			

No	3031102	科目コード	1010201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築業界では報告書の作成（Word）、様々な計算（Excel）、施主へのプレゼンテーション（PowerPoints）などを日常的に使用します、Office全般の知識は必ず必要になる基礎技能になります。	
年度	2024年度	学習内容：MicrosoftOfficeのWord・Excel・PowerPointsの違いと使用方法を学び、状況に合わせた適切なソフトで書類作成ができるようになるため、基本機能からそれぞれの特徴的な機能を学びます。	
学年	1年次		
期	1		
教科名	専門導入	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	専門導入2	01) 拡張子を理解し、ファイルの保存・整理ができる。	
単位	1	02) Wordを用いて文章の作成や体裁を整えることができる。	
履修時間	15	03) Wordを用いてレポートの作成ができる。	
回数	8	04) Excelを用いて適切な計算式を組むことができる。	
必修・選択	必修	05) Excelを用いて数値を処理し、グラフに作り替えることができる。	
省庁分類	32_⑩その他	06) PowerPointsを用いて、プレゼンテーションの基本事項がわかる。	
授業形態	講義	07) PowerPointsを用いて、アニメーションを用いたスライドが作成できる。	
作成者	野上 和裕	08)	
教科書	30時間でマスター Office2016	09)	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	②		
備考			

No	3031103	科目コード	1020501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築業界に携わるものとして、設計・施工・営業・メンテナンス、建築の流れを知ることとはどの分野に関わる事になっても、1人1人が新築時の全体の流れをつかんでおく事は重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：木造2階建て程度の1軒の住宅を題材に、設計者が住宅の依頼を受けてから、基本設計、実施設計、見積もり、工事契約、建築確認申請、工事監理、竣工、引き渡しへと順を追ってプロセスを学びます。	
期	1		
教科名	建築概論	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築概論	01) 仕事の相談（相談・依頼・ヒアリング）から法規チェック・敷地調査など必要な項目がわかる。	
単位	1	02) 計画書・計画案の作成、提案から設計契約までの流れがわかる。	
履修時間	15	03) 基本設計に求められる項目（配置・構造・周辺条件・設備など）がわかる。	
回数	8	04) 実施設計に求められる項目（意匠図・構造図・設備図など）がわかる。	
必修・選択	必修	05) 実施設計での各図面の種類となぜ必要なのかわかる。	
省庁分類	20_②建築計画	06) 見積りと工事契約の段階的項目を知り、契約までの流れがわかる。	
授業形態	講義	07) 建築確認申請の流れや必要な図面をしり、確認申請の流れがわかる。	
作成者	清 孝英	08) 工事監理と工程管理を知り、工事の流れを知り、監理と管理の違いがわかる。	
教科書	プロセスでわかる 住宅の設計・施工	09) 価値ある住宅を考えると共に、日本における住宅の歴史を知り、今後の目標を模索する。	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な実施設計・施工管理技術を教える必要があり、実施設計・施工管理経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3031104	科目コード	2020101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築の分野では図面が共通の言語であり、正確に読み取り・作図できることが重要です。現在はCADを用いたデジタル製図が一般的であり、CADを道具として使いこなせることが建築業界では重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：前半ではAutoCADの基本操作を前半で学び、後半では実際に木造住宅平面図のコピー課題を通して建築製図の基礎知識と木造住宅のルール、図面の読み取り方など建築製図の基礎知識・基礎技術を学びます。	
期	1		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習Ⅰ	01) AutoCADの座標概念と作図空間の概念がわかる。	
単位	2	02) 基本コマンドとその使い方がわかる。	
履修時間	60	03) AutoCADのレイヤの概念がわかり、線の色、線の種類、線の太さの関係がわかる。	
回数	30	04) CADによる効率的な作図方法を体験し、手描き製図には無い作図の特長をとらえる事ができる。	
必修・選択	必修	05) 建築平面図の描き方がわかる。	
省庁分類	-	06) 在来木造住宅の平面図を通して、日本建築が持つ寸法体系（尺貫法）がわかる。	
授業形態	実習	07) 在来木造住宅平面図に表現される基本的な部材の名称がわかる。	
作成者	野上 和裕	08) 各部材を描く時の線の持つ意味を理解し、細線、中線、太線の使い分けができる。	
教科書	基礎から学ぶ建築CAD／実践/建築CAD／図と模型でわかる木構造	09) 破線、一点鎖線、実線で表現される物の意味がわかり図面で使う事ができる。	
確認者	野上 和裕	10) CADで使われた色と印刷時の太さの関係がわかり、正しい表現で平面図が印刷できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記と実技試験による履修判定試験により【90点】＋課題提出による習熟度チェックにより【10点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	①		
備考	実務で必要なCAD製図技術を教える必要があり、CAD製図経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3031105	科目コード	2020601
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：建築の分野では立体物を平面上に表したり・逆に平面的な図面から立体物を読み取ることが建築技術者の基礎になります。正しい製図法を理解し適切な図面を描き分ける技術、図面を読み取る知識はとても重要です。 学習内容：手描き製図の道具の正しい使い方、製図法を学習します。立体物を展開図や透視図を描きながら理解を深め、階段の作図や模型の作成を通じてより建築的な作図を学習します。	
科	303. 建築科		
年度	2024年度		
学年	1年次		
期	1		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 01) 平行定規・勾配定規・シャープペンシルなど製図道具を正しく使用できる。 02) 三角スケールをもちいて尺度のある図面から正確な寸法がわかる。 03) 立体物を把握し三面図を作図できる。 04) 立体物を把握し展開図を作図できる。 05) 立体物を把握し断面図を作図できる。 06) 展開図より立方体の模型を作成できる。 07) アクソメトリックとアイソメトリックの違いが分かり、描き分けることができる。 08) 1点透視図法を知り、簡単な図形を1点透視図法で作図できる。 09) 2点透視図法を知り、簡単な図形を2点透視図法で作図できる。 10)	
科目名	建築立体造形実習Ⅰ		
単位	1		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	32. ⑩その他		
授業形態	実習		
作成者	佐藤 剛		
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト		
確認者	野上 和裕		
最終確認者	井坂 昭司		
実務教員	○		
該当DP	①②		
備考	実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。		

No		3032101	科目コード	1020101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由		
科	303. 建築科	必要性：建築業界に携わるものとして、寸法の知識、身体スケール、モジュール、人体行動の知識、動作空間など、寸法を意識的に観察し体験的に覚え、諸室に求められている機能を知erことは建築技術者としてとても重要です。		
年度	2024年度	学習内容：寸法の歴史を知り、モジュール体験を知ること共に、各所室の必要な機能と大きさを学びます。図面を見るだけではなく実際に計測することで、体験的に寸法を身に付けるように学習します。		
学年	1年次			
期	2			
教科名	建築計画	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目		
科目名	建築計画Ⅰ	01) 建築計画に用いる寸法の種類、成り立ちを知り、それぞれの意味・違いがわかる。		
単位	1	02) ゾーニング、動線とは何なのか違いがわかる。		
履修時間	15	03) 長い建築寿命の経済的仕組みを知り説明できる。		
回数	8	04) 現在まで続いて来た寸法のシステム（規格）を知り日常的に読み解くことができる。		
必修・選択	必修	05) 教室実測し、寸法を確認しながら作図できる。		
省庁分類	20. ②建築計画	06) 実測した図面から、必要な計算（高さ・面積など）ができる。		
授業形態	講義	07) 独立住宅の中で室と動線がどの様に計画されているのかを図面から読み取り、説明できる。		
作成者	清 孝英	08) 独立住宅の歴史的な作品と読み取り、特徴を説明できる。		
教科書	やさしい建築計画	09) 独立住宅の工法の種類を知り、どれが用いられているのかの判断ができる。		
確認者	野上 和裕	10)		
最終確認者	井坂 昭司	評価方法		
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。		
該当DP	④			
備考	実務に必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務家教員を担当させている。			

No		3032102	科目コード	1020601
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由		
科	303. 建築科	必要性：建築を計画するに当たっては、建築を取り巻く屋内外の環境（自然現象など）を知り、その効果を上手に取り入れて、より快適な空間の計画ができることが必要です。		
年度	2024年度	学習内容：この科目では光環境と温熱環境について学習します。光環境では視覚、照明、色彩について、温熱環境では温度と熱移動、室温と熱負荷、湿度と結露について学習します。		
学年	1年次			
期	2			
教科名	環境工学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目		
科目名	環境工学 1	01) 視覚、照度と輝度などについてわかる。		
単位	1	02) 昼光、人工照明、照明計画の概要についてわかる。		
履修時間	15	03) 色の表示、表色、色の名称についてわかる。		
回数	8	04) 熱の移動、熱が伝わるしくみ、熱伝達、熱伝導、熱貫流量についてわかる。		
必修・選択	必修	05) 室温の変動、室内外への熱の出入り、断熱性能についてわかる。		
省庁分類	21. ③建築環境工学	06) 湿度、結露についてわかる。		
授業形態	講義	07)		
作成者	今野 祐二	08)		
教科書	図解建築環境工学の知識	09)		
確認者	野上 和裕	10)		
最終確認者	井坂 昭司	評価方法		
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。		
該当DP	④⑧⑨			
備考				

No		3032103	科目コード	1021201
系	建築・インテリア系		シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303 建築科		必要性：建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることとはとても重要です。	
年度	2024年度		学習内容：最初に「各種構造を学んでいく際に必要となる『基本的な言葉の意味』」を学びます。その上で、各種構造の一つ目となる木質構造について、材料、接合部、構造概要など詳しく学んでいきます。	
学年	1年次			
期	2			
教科名	建築一般構造		科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造Ⅰ		01) 建築物を構成している要素がわかる。	
単位	1		02) 建築物に作用する外力と、その外力に対してどのような仕組みで耐えているのかがわかる。	
履修時間	15		03) 木質構造の概要と木質構造の種類がわかる。	
回数	8		04) 木材及び木質材料の材料特性がわかる。	
必修・選択	必修		05) 木材の接合方法（継手、仕口）とその性能がわかる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造		06) 軸組の全体像と、各部位の名称がわかる。	
授業形態	講義		07) 小屋組の全体像と、各部位の名称がわかる。	
作成者	宮坂 達		08) 床組みの全体像と、各部位の名称がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造		09) 枠組壁工法の概要がわかる。	
確認者	野上 和裕		10) 木造戸建住宅における壁量計算の概要がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司		評価方法	
実務教員	○		筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④			
備考	実務に必要な木造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。			

No		3032104	科目コード	1021601
系	建築・インテリア系		シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科		必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。	
年度	2024年度		学習内容：法令集を読取るための原則や調べ方の手順を理解し、「建築基準法」のうち「全体構成」「用語の定義」「面積・高さの定義」「道路」「用途地域」を取り上げ、概要の理解と関連条文を調べるように学習します。	
学年	1年次			
期	2			
教科名	建築法規		科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規Ⅰ		01) 建築関係法令集にはどのような法が掲載されているのか、その概要がわかる。	
単位	1		02) 「法律・政令・省令」の関係がわかる。	
履修時間	15		03) どの条文でも、それが「第何条・第何項・第何号」かを言うことができる。	
回数	8		04) 「または・かつ・いずれか」「以上・以下・超える・未満」などの意味を正しくとらえることができる。	
必修・選択	必修		05) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
省庁分類	28. ③建築法規		06) 建築基準法の「用語の定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。	
授業形態	講義		07) 建築基準法の「面積・高さの定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。	
作成者	上岡 加奈		08) 単体規定と集団規定の違い及び都市計画区域・準都市計画区域の意味がわかる。	
教科書	建築関係法令集		09) 建築基準法の「道路」について、なぜこれらの規定があるのかと、それぞれの規定の正しい解釈がわかる。	
確認者	野上 和裕		10) 建築基準法の「用途地域」について、なぜこれらの規定があるのかと、別表2の読み取り方がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司		評価方法	
実務教員	○		筆記試験による履修判定試験により【82点】＋毎週の課題提出により【18点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑦			
備考	建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。			

No	3032105	科目コード	1022001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：施工を意識した実務レベルの図面のために、描き込み密度を理解すると共に、条件によって毎回異なる住宅図面に対応するために、パターン演習をこなし応用力を身に付け条件に適合した図面を描き上げ技術が必要となります。	
年度	2024年度	学習内容：木造住宅の設計プランを実務で適用する精度の図面に仕上げるために様々なパターン演習を通して構造・法規を満たした図面へと書き上げる為にパターン演習を行い、精度の高い図面が描けるように学習します。	
学年	1年次		
期	2		
教科名	設計製図演習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	設計製図演習1	01) 断面図において、作図範囲を理解し、線分の使い分けを知り、適切な作図範囲がわかる。	
単位	2	02) 断面図において、断面部と見え掛り部の表現方法の違いを理解し、作図し分けることができる。	
履修時間	30	03) 断面図において、高さの寸法、境界線、斜線制限など作図し、適切なのかを判断できる。	
回数	15	04) 立面図において、作図範囲を理解し、線分の使い分けを知り、適切な作図範囲がわかる。	
必修・選択	必修	05) 立面図において、前後関係を意識した作図ができる。	
省庁分類	-	06) 展開図において、作図範囲を理解し、線分の使い分けを知り、適切な作図範囲がわかる。	
授業形態	演習	07) 展開図において、断面部と見え掛り部の表現方法の違いを理解し、作図できる。	
作成者	野上 和裕	08) 展開図において、高さの寸法、仕上げ素材表現、壁面の設備的に必要な要素など作図できる。	
教科書	実践建築CAD	09) 自分で作図した図面（平面図・断面図・立面図・展開図）を印刷し客観的に見直し、図面の各整合性のチェックができる。	
確認者	野上 和裕	10) 表紙のページと各図面の整合性を確認し、一式整えて印刷、製本できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	毎週の課題提出により【60点】＋最終完成作品の提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	③④⑤⑦		
備考			

No	3032106	科目コード	2020201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度	学習内容：各部屋の寸法や機能を学習し必要な要素を適切に配置できることを目標に設計を学び、小規模な木造住宅の設計を行います。住宅を適切な表現方法により作図し、相手に自分の考えを伝えるためにまとめ上げます。	
学年	1年次		
期	2		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習2	01) エスキースの意味と線の強弱を描き分けることができる。	
単位	2	02) トイレを題材に部屋の計測を学び、設計において必要な寸法を見つけ出し測ることができる。	
履修時間	60	03) トイレ・浴室・洗面脱衣室の基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。	
回数	30	04) 玄関・キッチン・寝室・クローゼットの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。	
必修・選択	必須	05) 階段の名称・寸法・形状を知り適切な階段の設計ができる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 書斎・リビング・ダイニング・吹き抜けの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。	
授業形態	実習	07) 駐車場・玄関アプローチなど外構の要素・寸法・繋がりを理解し、設計できる。	
作成者	佐藤 剛	08) 適切な寸法・室名の記入が行え、面積表など必要な書き込みを行いエスキース図面として作図できる。	
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト	09) 高さ関係の寸法を理解し、立面図・断面図を作図することができる。	
確認者	野上 和裕	10) 完成図面をCAD化することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【50点】＋毎週の課題提出により【20点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	③④		
備考	木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。		

No	3032107	科目コード	2020701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：設計者として設計意図を建築に係わる人（施主・施工者など）に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められます。そのために立体表現やプレゼンボードへのまとめの技術が必要です。	
年度	2024年度	学習内容：3DCGソフトであるSketchUpを主軸とし住宅の3次元表現を学びます。後半ではLayout等のアプリケーションを使用しプレゼンテーションボード作成のための技術や相手に見せることを意識したレイアウトを学習します。	
学年	1年次		
期	2		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習2	01) 立体空間（幅、高さ、奥行き）がわかる。	
単位	1	02) プリミティブを使用した基本操作ができる。	
履修時間	30	03) 寸法を意識したエンターティーを作成できる。	
回数	15	04) 配布図面を用いて、室内空間を作成することができる。	
必修・選択	必修	05) 配布図面を用いて、住宅の外観と内観のパスを作成することができる。	
省庁分類	-	06) エクステリアとインテリアを自分のプランとして簡易的ではあるがコーディネートすることができる。	
授業形態	実習	07) プレゼンテーションボードを作成し、人へ伝える為の基本を習得することができる。	
作成者	岩石 純	08)	
教科書	やさしく学ぶSketchUp	09)	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【60点】＋毎週の課題提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	①②④		
備考	実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3032108	科目コード	2040101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2024年度	学習内容：2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組めます。	
学年	1年次		
期	2		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト1	01) 問題発見に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題発見に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題発見に向け、技術者としての問題意識をもって、現状の問題点を指摘することができる。	
回数	15	04) 問題発見に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題発見に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
省庁分類	-	06) 問題発見に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題設定に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題設定に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
教科書	-	09) 問題設定に向け、現状の問題点から解決すべき課題を提案することができる。	
確認者	野上 和裕	10) 問題発見をとおして設定した課題の社会的な意義等を適切に説明することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考		③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	

No	3032109	科目コード	2060101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築物を設計するためには、土地の大きさや形状、面積、レベル差を正確に求める必要があります。その為には、土地の形状を指定されたスケールで正確に描き写すことが必要になります。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：巻き尺による正確な寸法の読み取りと補正方法、平板による測量とそれらの誤差を修正し、面積を計算できるように未知の寸法を計算し、三斜測量図にまとめ求積図・求積表にまとめる。レベルを使った水準測量の技術的な原理と技能を学ぶ。	
期	2		
教科名	測量実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	測量実習Ⅰ	01) 測量の起源から現在までの歴史的な流れを学び、近代測量学が俯瞰できる。 02) 巻き尺による2点間の距離の測り方と誤差の修正方法がわかる。 03) 相似の原理を理解し、寸法比と面積比の関係がわかる。 04) 平板の標定の方法を理解し、4～5点で構成される多角形敷地の平板測量ができる。 05) 平板測量の結果から誤差の補正方法を学び、敷地形状を決められた縮尺で紙に作図できる。 06) 対角線で三角形に分割し、ヘロンの公式を活用し、各三角形の高さを求め、三斜測量図として敷地図が描ける。 07) 水準測量機（レベル）の取り扱いがわかる。 08) 水準測量を行う中で、器具の取り扱いを習得し、正確なレベルの読み取りができる。 09) 野帳のまとめ方を学び、実際に野帳を作り、水準測量の結果をまとめることができる。 10) 評価方法	
単位	1		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	32.⑩その他		
授業形態	実習		
作成者	杉本 安雄		
教科書	技報堂 図解土木講座「測量学」		
確認者	野上 和裕		
最終確認者	井坂 昭司		
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【85点】＋毎週の課題提出により【15点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な測量技術を教える必要があり、測量経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3033101	科目コード	1020201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築の分野では強さ・機能・デザインが求められます。時代背景と併せ建築を見分ける力・求められていることを見抜く力が重要であり、歴史的に必要な建築物を読み解いた知識が必要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：住宅を中心とした西洋建築史全般を学びます。特にここでは、ギリシャ以前、ギリシャ・ローマ、ゴシック、ルネサンス、新古典主義までの近代以前の建築について学びます。	
期	3		
教科名	建築史	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築史Ⅰ	01) 文明が定住によっては始まり、定住によって住宅が生まれたという建築史の起源と背景がわかる。	
単位	1	02) ユークラテの初期文明（メソポタミア、エジプト）建築がギリシャ建築に与えた影響がわかる。	
履修時間	15	03) オーダーやアゴラ等、ギリシャ建築の特徴と、ギリシャ建築を代表するパルテノン神殿の機能と特徴がわかる。	
回数	8	04) アーチ、ドーム、コンクリートの発明によって巨大化したローマ建築の概要と代表的建築物の特徴がわかる。	
必修・選択	必修	05) ローマ帝国の衰退と分割によって誕生したロマン式建築（西欧）とビザンチン建築（東欧）の違いと特徴がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) ローマ帝国の衰退によってしだいに強大化したキリスト教建築、特にゴシック建築の構造的特徴がわかる。	
授業形態	講義	07) 強大化したキリスト教への疑問と反発から生まれたルネサンス建築の概要、特徴、代表的建築がわかる。	
作成者	大室 浩明	08) ルネサンス建築の変遷としての、マニエリスム、バロック、ロココ建築の概要、特徴、代表的建築がわかる。	
教科書	コンバクト版建築史（彰国社）	09) ギリシャ・ローマ建築のバリエーションとしての新古典主義建築の背景、特徴、代表的建築がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 世紀末建築（新古典主義建築）と現代建築（ポストモダニズム建築）の類似性がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	建築設計の実務経験がある教員が、歴史やデザインを考えた設計思想などを教える。		

No	3033102	科目コード	1020701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築を計画するに当たっては、建築を取り巻く屋内外の環境（自然現象など）を知り、その効果を上手に取り入れて、より快適な空間の計画ができることが重要で、そのために環境工学の知識が必要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：温熱環境、室内空気環境、音環境について学習します。	
期	3		
教科名	環境工学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	環境工学2	01) 温熱環境の6つの要因（気温、風速、湿度、放射温度、着衣量、代謝量）がわかる。	
単位	1	02) 温熱環境指標の種類とその因子がわかる。	
履修時間	15	03) 太陽の位置、日照と日影の関係がわかる。	
回数	8	04) 室内汚染物質の発生源と影響、室内の環境基準値がわかる。	
必修・選択	必修	05) 必要換気量、自然換気、機械換気がわかる。	
省庁分類	21. ③建築環境工学	06) 音の性質、単位、音のレベル（dB）、音の伝搬がわかる。	
授業形態	講義	07) 室内の音、吸音、遮音、騒音、振動がわかる。	
作成者	今野 祐二	08)	
教科書	図解建築環境工学の知識	09)	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑧⑨		
備考			

No	3033103	科目コード	1021301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築設計において、適切な材料を適切な部位に採用するためには、材料の美観性のみならず、物理的性能・性質についても正確な知識が必要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：建築材料Ⅰでは、建築の主要構造部を担う3大材料である木、コンクリート、鉄の基礎的知識について学びます。	
期	3		
教科名	建築材料	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料Ⅰ	01) 木材及び木質構造の特徴がわかる。	
単位	1	02) 樹木の種類や主な用途、注意点がわかる。	
履修時間	15	03) 木材の基本的性質（乾燥・収縮・変形・可燃）や物理的性質がわかる。	
回数	8	04) コンクリート及び鉄筋コンクリート構造の特徴がわかる。	
必修・選択	必修	05) コンクリートを構成する材料及びコンクリートの種類がわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) 硬化前及び硬化後のコンクリートの基本的性質や物理的性質がわかる。	
授業形態	講義	07) 鋼及び鉄骨構造の特徴がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) 鋼材の種類と機械的性能、物理的性能がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築材料 第2版	09) 鋼材と炭素量との関係、鋼材の比重と特性、鋼材の強度がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) そのほかの金属材料の概要がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④		
備考	実務で必要な木造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3033104	科目コード	1021501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築に関わる者として、建設現場における4大任務（品質管理・原価管理・工程管理・安全衛生管理）の意味を理解し、実社会での管理の在り方を知ることとはとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：4大任務の各内容の概要から一歩踏み込んだ所までを学びます。建設現場では日々どのような事を行い、どんな事に気を付けて管理をしなければいけなさを理解するための順序立てて学習します。	
期	3		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工Ⅰ	01) 品質管理の目的・管理手法・品質管理の7つ道具がある事がわかる。	
単位	1	02) P D C Aサイクルの意味・活用方法がわかる。	
履修時間	15	03) 原価管理の目的・出来高と進捗度の関係がわかる。	
回数	8	04) ゼネコンとサブコンとの間で取り交わしをする書類についてがどのようなものがあるのかわかる。	
必修・選択	必修	05) 工程管理の重要性・マイルストーンの押え方・原価管理との関係性がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) ネットワーク工程表の読み取り方・作図方法を学び、ネットワーク工程表を読み解くことができる。	
授業形態	講義	07) 建設現場における安全管理の重要性・その他の項目との関係性がわかる。	
作成者	片倉 啓太	08) K Y K ・ T B M ・新規入場者教育等、建設現場における安全管理の手法がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築施工	09) 一般建設業・特定建設業など、建設業法で定められる建設会社の制限・資格について違いがわかる。	
確認者	野上 和裕	10) モチベーション・モラル等、4大任務に追加する考えの「M」の内容・考え方がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑥		
備考	施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。		

No	3033105	科目コード	1021701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：「建築基準法」のうち「建蔽率」「容積率」「高さ制限」「防火・耐火」を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。	
期	3		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規2	01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
単位	1	02) 建築基準法の「建蔽率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。	
履修時間	15	03) 建築基準法の「建蔽率」について、条文から原則及び主な例外を読み取り、実際に計算できる。	
回数	8	04) 建築基準法の「容積率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築基準法の「容積率」について、条文から原則及び主な例外を読み取り、実際に計算できる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	06) 建築基準法の「高さ制限」について、主な種類、それぞれの意味及び基本の考え方がわかる。	
授業形態	講義	07) 建築基準法の「高さ制限」のうち「道路斜線制限・隣地斜線制限・北側斜線制限」について、条文から原則及び主な例外を読み取り、実際に計算できる。	
作成者	上岡 加奈	08) 建築基準法の「高さ制限」における「天空率による緩和」について、その意味及び基本の考え方がわかる。	
教科書	建築関係法令集	09) 建築基準法の「高さ制限」のうち「日影規制」について、条文から原則及び主な例外等を読み取ることができる。	
確認者	野上 和裕	10) 建築基準法の「用語の定義」のうち「耐火・防火に関するもの」について、意味及びそれぞれの関係性を正しくとらえる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【82点】＋毎週の課題提出により【18点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑦		
備考	建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。		

No	3033106	科目コード	1022101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：施工を意識した実務レベルの図面のために、描き込み密度を理解すると共に、条件によって毎回異なる住宅図面に対応するために、パターン演習をこなし応用力を身に着け条件に適合した図面を描き上げ技術が必要となります。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：「木造住宅S・B表裏から各部材の寸法や配置間隔を読み取り」「意匠図より各伏図を作画できるようにパターン演習」を中心に学び、軸組図では真壁・大壁の違いを理解します。壁量計算による構造の法規チェックも学習します。	
期	3		
教科名	設計製図演習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	設計製図演習2	01) 意匠図と構造図の役割・書き込み度合いの違いがわかる。	
単位	2	02) スパン表を基に各部材の寸法やピッチを正確にわかる。	
履修時間	30	03) 基礎伏図のパターン演習：基礎・床束・捨てコンクリート・床下換気口・アンカーボルトを適切に配置できる。	
回数	15	04) 1階床伏図のパターン演習：部屋の用途を理解し、大引き・根太・土台・床火打ち・根太掛け・隙根太を適切に配置できる。	
必修・選択	必修	05) 2階床伏図のパターン演習：柱・梁の力の流れを理解し、胴差・床梁・根太・火打ち梁を適切に配置できる。	
省庁分類	-	06) 屋根伏図のパターン演習：建物の形状から適切な形状の切妻・寄棟の屋根を計画できる。	
授業形態	演習	07) 小屋伏図のパターン演習：屋根形状を理解し、軒桁・妻梁・小屋梁・火打ち梁・小屋束・母屋・棟木・垂木を適切に配置できる。	
作成者	野上 和裕	08) 施工を意識した各伏図（基礎伏図・床伏図・小屋伏図）を作画できる。	
教科書	図と模型でわかる木構造	09) 施工を意識した軸組図（外壁・内壁、真壁・大壁）を作画できる。	
確認者	野上 和裕	10) 建築基準法を基に、木造住宅の壁量計算ができ、構造の可否判定ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	毎週の課題提出により【60点】＋最終完成作品の提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	③④⑤⑦		
備考	実務で必要な木造設計技術を教える必要があり、木造在来の経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3033107	科目コード	2020301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：「建築製図実習3では、前期の計画的要素に構造・法規の要素を追加して設計を行います。700㎡規模の設計課題に取り組み、様々な条件による住宅を提案し、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。」	
期	3		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習3	01) 住宅の必要諸室の一般サイズがわかり、構造を意識した柱・部屋の配置ができる。	
単位	2	02) 住宅の必要諸室の用途がわかる程度の家具・設備を適切なサイズで作図できる。	
履修時間	60	03) 面積計算（敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積・建蔽率・容積率）ができる。	
回数	30	04) 斜線制限（道路・隣地・北側）を理解し、建てること可能な範囲を割り出すことができる。	
必修・選択	必修	05) 設計課題1：斜線制限を意識した木造2階建て住宅を提案できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 設計課題2：高低差のある敷地における木造2階建て住宅を提案できる。	
授業形態	実習	07) 設計課題3：旗竿敷地における、販売を意識した高級木造2階建て住宅を提案できる。	
作成者	佐藤 剛	08) スタディ模型を作成し、屋根や開口部の検討を行い、図面へのフィードバックができる。	
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト	09) 設計趣旨やイメージなど他人に正確に伝えるためにまとめ表現できる。	
確認者	野上 和裕	10) C A D製図により図面（配置図・各階平面図・屋根伏図・断面図・立面図）を消書できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【50点】＋毎週の課題提出により【20点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	③④		
備考	木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。		

No	3033108	科目コード	2020801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：設計者として設計意図を建築に係わる人（施主・施工者など）に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められます。そのために立体表現やプレゼンボードへのまとめの技術が必要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：「中規模の木造住宅を題材にした図面を基に、3DCGや模型による表現をA2ボード1枚にまとめ、人に正確に魅力的に伝える手法を学びます。完成後にはプレゼンテーションによる発表を行います。」	
期	3		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習3	01) 平面図・立面図などを読み取り、立体化できる。	
単位	1	02) パースを作成するにあたり、制作に必要なレイヤー構成を考えレイヤー分けができる。	
履修時間	30	03) 図面を基に建物の躯体部分のモデリングができる。	
回数	15	04) 図面を基に窓や間仕切りを適切に配置できる。	
必修・選択	必修	05) 図面を基に階段や玄関などを高低差を含め適切に設置できる。	
省庁分類	-	06) エクステリアやインテリアを自分で作成できる。	
授業形態	実習	07) 敷地内のモデリングをはじめ外構の表現ができる。	
作成者	岩石 純	08) 前面道路・隣地など周辺環境を表現できる。	
教科書	やさしく学ぶSketchUp	09) プレゼンボードに図面やダイアグラム、3DCG、模型写真、素材情報など記載・レイアウトできる。	
確認者	野上 和裕	10) 見る人を考え、伝えやすいレイアウト、文章を考え、A2用紙1枚に自分の考えを表現できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【60点】＋毎週の課題提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	②④		
備考	実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3033109	科目コード	2040201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	
期	3		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト2	01) 問題解決に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、技術者として解決のための方法や手順を提案することができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、工程表および予算書を提案することができる。	
確認者	野上 和裕	10) 問題解決に向け、解決のための方法や手順を計画書（企画書）にまとめることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考		③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびレーダーチャート」を用いて記録する。	

No	3034101	科目コード	1020301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築の分野では強さ・機能・デザインが求められます。時代背景と併せ建築を見分ける力・求められていることを見抜く力が重要であり、歴史的に必要な建築物を読み解いた知識が必要です。	
年度	2024年度	学習内容：住宅を中心とした日本建築史全般を学びます。特に竪穴式住居、寝殿造、書院造、茶室、数寄屋造、町屋等に日本固有の建築について、様式とその背景にある生活についても学びます。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築史	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築史2	01) 竪穴式住居の構造と住居形式、縄文時代の生活様式（定住＋稲作＋食糧保存＝村の誕生）がわかる。	
単位	1	02) 平安時代の庶民の住居形式（みせ＋土間＋通り庭＝町屋の原型）とそれらの今日の住宅への影響がわかる。	
履修時間	15	03) 平安時代の貴族の住居形式（寝殿＋対屋＋渡殿＝寝殿造）とその可変的インテリアの特徴がわかる。	
回数	8	04) 武家社会の武家屋敷の形式、特に書院造が生まれた背景と建築の形式がわかる。	
必修・選択	必修	05) 武家社会の庶民の住まい、特に関東の表店裏長屋の特徴、関西の町屋の特徴と今日の住宅への影響がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) 茶室の構造的特徴、デザインの特徴、空間的特徴が分かり、それらを住居化した数寄屋造の特徴がわかる。	
授業形態	講義	07) 神社建築の歴史的、形式的、文化的背景が分かり、それらを代表する出雲大社と伊勢神宮の特徴がわかる。	
作成者	大室 浩明	08) 「法隆寺」「平等院鳳凰堂」「阿弥陀堂」の事例解説から仏教建築の歴史と建築的構造がわかる。	
教科書	コンバ 外版建築史（彰国社）	09) 「春日山城（山城）」「安土城（平山城）」「大坂城（平城）」の事例解説から城郭建築の歴史と特徴がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 明治以降の西洋住宅の導入、中廊下式住宅の普及、モダンビルの始まり等、近代住宅の変遷がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	建築設計の実務経験がある教員が、歴史やデザインを考えた設計思想などを教える。		

No	3034102	科目コード	1020801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めるために必要不可欠なものです。	
年度	2024年度	学習内容：「建築設備1」では、給排水・衛生設備を中心に、建築計画する上で必要な給水設備、給湯設備、排水・通気設備、衛生器具設備に関する知識について学習します。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備1	01) 建築設備とは何か、建築設備の種類がわかる。	
単位	1	02) 建築の部位と空間構成（ベントハウス、ハト小屋、パイプスペースなど）がわかる。	
履修時間	15	03) 給排水・衛生設備で取り扱う水の基本的な性質がわかる。	
回数	8	04) 給水設備計画で知っておくべき、給水方式、汚染防止、機材などがわかる。	
必修・選択	必修	05) 給湯設備計画で知っておくべき、給湯の性質、給湯方式、給湯機器の種類などがわかる。	
省庁分類	22. ④建築設備	06) 排水・通気設備計画で知っておくべき、排水の種類、排水方式、トラップ、阻集器の役割などがわかる。	
授業形態	講義	07) 通気設備の役割と通気方式についてわかる。	
作成者	今野 祐二	08) 屋外に敷設される排水樹の種類と用途や浄化槽の仕組みなどがわかる。	
教科書	図解 建築設備の知識	09) 衛生器具設備（水受容器、給水器具、排水器具など）の種類がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) ガス設備における都市ガスと液化石油ガス（プロパンガス）の特徴がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑧⑨		
備考			

No	3034103	科目コード	1021001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとしても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2024年度	学習内容：「構造力学I」では、「基本的な構造力学の考え方」、「構造物や力の表現方法を学び」、「建築構造力学の共通言語を習得」します。後半は「モーメント」、「力の分解・合成」、「力の釣り合い」の計算方法を学習します。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学I	01) 力学の必要性を理解し、構造物に加わる荷重の種類がわかる。	
単位	1	02) 構造物を部材と節点に分解し荷重図としてモデル化できる。	
履修時間	15	03) 「安定構造物・不安定構造物」「静定構造物・不静定構造物」の違いを理解し判別式より種類分けできる。	
回数	8	04) 荷重・力を理解し「ベクトル」として正確に表現できる。	
必修・選択	必修	05) 荷重の位置、作用する位置を正確に把握し、作用点に発生するモーメントがわかる。	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06) 「力の合成・分解」を図により求め、適切な大きさ・方向・位置の「合力・分力」がわかる。	
授業形態	講義	07) 「力の合成・分解」を計算により求め、適切な大きさ・方向・位置の「合力・分力」がわかる。	
作成者	野上 和裕	08) 数学的知識「内積の積・外積の積」「三角比」「三平方の定理」がわかる。	
教科書	建築構造力学 新版（初学者の建築講座）	09) 「複数の平行な荷重」「分布荷重」をバリニオンの定理を利用し、合力がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 「力のつり合い条件式」を理解し、つり合うために必要な力がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④		
備考			

No	3034104	科目コード	1021401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において建築生産の大きな流れを知り、多岐にわたる建築業務を理解する事で、担当している部分を正確に把握する必要があります。現場で求められる人材になるために重要な知識となります。	
年度	2024年度	学習内容：建築に携わる設計・ゼネコン・サブコンの業務を、大きな流れと共に学習します。また各業務の種類・注意点についても学習し、幅広い知識を身に着けます。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	生産管理	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	生産管理	01) 建築に携わる人達（施主・設計者・設計監理者・ゼネコン・サブコン）と、その行う業務の内容がわかる。	
単位	1	02) 管理（タケカン）と監理（サラカン）の違いがわかる。	
履修時間	15	03) ゼネコンが行う管理のQCDS Eと、管理手法としてのPDCAがわかる。	
回数	8	04) 準備工事としての、地盤調査の種類や各種官庁申請の種類・事前注意事項がわかる。	
必修・選択	必修	05) 仮設の種類と、仮設による安全管理の重要性がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 土工事・杭工事・山留工事・湧水排水工法の各種種類、注意点がわかる。	
授業形態	講義	07) RC躯体工事の流れ、型枠工事、鉄筋工事、コンクリート工事の用語・作業内容がわかる。	
作成者	片倉 啓太	08) 鉄骨工事における、ファブリケーターでの鉄骨加工と、現場での建方・ボルト締め・溶接がわかる。	
教科書	施工がわかる イラスト建築生産入門	09) 外装仕上げ工事の目的と種類、内装仕上げ工事の種類、設備工事の種類がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 確認申請・中間検査・完了検査の内容とタイミング、各種済証の重要性がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑥		
備考	施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。		

No	3034105	科目コード	1021801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておくことが必要あります。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：前半では建築物の防火・耐火に関する規定を、後半は「居室」に関する事項など小規模建築物にも適用される規定を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。	
期	4		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規3	01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
単位	1	02) 建築基準法の「耐火・防火」については複数の規定があり、重複する場合は厳しい方に従うことがわかる。	
履修時間	15	03) 建築基準法の「防火地域・準防火地域」に関する規定について、集団規定であること及びこの規定の意味がわかる。	
回数	8	04) 建築基準法の「耐火建築物等とすべき建築物」に関する規定について、単体規定であること、この規定の意味及び全体像がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築基準法の「地階の居室」「昇降」「便所」「天井の高さ」「床の防湿」「階段」に関する規定について、それぞれの規定の概要及び基本の考え方がわかる。	
省庁分類	28.⑨建築法規	06) 建築基準法の「居室の採光」に関する規定について、条文から原則及び主な例外等を読み取り、実際に計算できる。	
授業形態	講義	07) 建築基準法の「居室の換気」に関する規定について、条文から原則及び主な例外等を読み取り、実際に計算できる。	
作成者	上岡 加奈	08) 建築基準法の「火気使用室の換気」に関する規定について、条文から原則及び主な例外等を読み取り、実際に計算できる。	
教科書	建築関係法令集	09) 建築基準法の「シックハウス防止のための換気」に関する規定について、条文から原則及び主な例外等を読み取り、機械換気による場合の必要換気量を計算できる。	
確認者	野上 和裕	10) 建築基準法の「シックハウス防止のための材料規制」に関するについて、概要及び基本の考え方がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【82点】＋毎週の課題提出により【18点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑦		
備考	建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。		

No	3034106	科目コード	1022201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：施工を意識した実務レベルの図面のために、描き込み密度を理解すると共に、条件によって毎回異なる住宅図面に対応するために、パターン演習をこなし応用力を身に着け条件に適合した図面を描き上げ技術が必要となります。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：木造住宅の伏図を理解し、各部材の方向や大きさ・ピッチなどを割り出し矩計図として作図します。詳細な図面として施工時に必要な情報量を理解し、正確に描き上げるように演習を行いながら作図します。	
期	4		
教科名	設計製図演習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	設計製図演習3	01) 矩計図の役割を知り、必要な描き込み量がわかる。	
単位	1	02) 棒矩計図としての作図範囲とその意味がわかる。	
履修時間	15	03) 各伏図より各部分での部材が切断されているのか見え掛りなのか判断できる。	
回数	8	04) 各伏図より各部材の断面寸法やピッチを正確にわかる。	
必修・選択	必修	05) 基準となる高さの種類と寸法が求められ、用紙に収まる位置を判断し図面内の記入位置が判断できる。	
省庁分類	－	06) 基礎周辺～1階床の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。	
授業形態	演習	07) 1階天井～2階床の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。	
作成者	又野 寛子	08) 2階天井～屋根の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。	
教科書	図と模型でわかる木構造	09) 切断壁や切断建具を矩計図に求められる内容として作図できる。	
確認者	野上 和裕	10) 矩計図に求められる寸法・文字情報を過不足なく記入できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	毎週の課題提出により【60点】＋最終完成作品の提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	③④⑤⑦		
備考	実務で必要な木造設計技術を教える必要があり、木造在来の経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3034107	科目コード	2020401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：建築製図実習4では、前期までに学習した内容を元に店舗併用住宅の設計を行います、210㎡規模の設計課題に取り組み、様々な条件による併用住宅を提案し、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。	
期	4		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習4	01) 2世帯住宅における、共有と分離を理解し、2世帯を1軒にまとめた提案ができる。	
単位	1	02) 店舗部に必要な条件を整理し、求められている機能を適切な大きさや位置として住宅に組込んだ提案ができる。	
履修時間	45	03) 店舗部と住居部の面積的区分けができ、プライバシー保護を意識した動線提案ができる。	
回数	23	04) 敷地内における、パブリックとプライベートのスペースを明確に分けた提案ができる。	
必修・選択	必修	05) 設計課題1：「AVシアターのある二世帯住宅」を木造2階建て住宅として提案できる。	
省庁分類	31.①建築設計製図	06) 設計課題2：「喫茶コーナーを持つギャラリー併用住宅」を木造2階建て住宅として提案できる。	
授業形態	実習	07) 設計課題3：「小規模な設計事務所がある併用住宅」を木造2階建て住宅として提案できる。	
作成者	佐藤 剛	08) スタディ模型を作成し、屋根や開口部の検討を行い、図面へのフィードバックができる。	
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト	09) 設計趣旨やイメージなど他人に伝えるための表現をまとめられる。	
確認者	野上 和裕	10) C A D製図により図面（配置図・各階平面図・屋根伏図・断面図・立面図）を清書できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【50点】＋毎週の課題提出により【20点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	③④		
備考	木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。		

No	3034108	科目コード	2020901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：設計者として設計意図を建築に係わる人（施主・施工者など）に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められる。そのために立体表現やボードへのまとめの技術が必要である。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：中規模の木造住宅を題材にした図面を基に、3DCGや模型による表現をA2ボード1枚にまとめ、人に正確に魅力的に伝える手法を学びます。完成後にはプレゼンテーションによる発表を行います。	
期	4		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習4	01) 平面図・立面図などを読み取り、立体化できる。	
単位	1	02) パースを作成するにあたり、制作に必要なレイヤー構成を考えレイヤー分けができる。	
履修時間	30	03) 図面を基に一部2階建ての建物の躯体部分のモデリングができる。	
回数	15	04) 図面を基に窓や間仕切りを精度良く配置・モデリングできる。	
必修・選択	必修	05) 図面を基に階段や玄関など高低差の部分に必要なに応じて手すりやスロープを含め適切にモデリングできる。	
省庁分類	-	06) エクステリアやインテリアを設計趣旨に沿って作成できる。	
授業形態	実習	07) 敷地内のモデリングをはじめ外構を設計趣旨に沿って表現できる。	
作成者	岩石 純	08) 前面道路、隣地など周辺環境を計画地に合わせて表現できる。	
教科書	やさしく学ぶSketchUp	09) プレゼンボードに図面やダイアグラム、3DCG、模型写真、素材情報など記載・レイアウトできる。	
確認者	野上 和裕	10) 見る人を考え、伝えやすいレイアウト、文章を考え、A2用紙1枚に自分の考えを表現できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【60点】＋毎週の課題提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	②④		
備考	実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3034109	科目コード	2040301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	
期	4		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト3	01) 問題解決に向け、計画書(企画書)にそって計画を実行することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、仲間と協力して行動することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、粘り強く取り組むことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録・報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、技術者として計画の進捗状況から新たな問題点を発見することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、新たな問題点の解決策を筋道をたてて(論理的に)考えることができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、新たな問題点の修正案を立案することができる。	
確認者	野上 和裕	10) 問題解決に向け、修正案を実行することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考		③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびレーダーチャート」を用いて記録する。	

No	3035101	科目コード	1020401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築の分野では強さ・機能・デザインが求められます。時代背景と併せ建築を見分ける力・求められていることを見抜く力が重要であり、歴史的に必要な建築物を読み解いた知識が必要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：上記に対応しながらも、住宅を中心とした西洋建築史全般を学びます。特にここでは、産業革命以降を「近代」と定義し、近代、現在、ポストモダンに連なる建築の歴史を学びます。	
期	5		
教科名	建築史	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築史3	01) 産業革命が建築の歴史に与えた影響（建築素材の変化・装飾の排除）とその理由がわかる。	
単位	1	02) 産業革命に反対し装飾の復活を試みたアーツ&クラフト運動の背景と経過、そして失敗の理由がわかる。	
履修時間	15	03) アーツ&クラフト運動を継承したヨーロッパの建築様式（アール・ヌーヴォー、ビュッソン等）の特徴、建築、建築家がわかる。	
回数	8	04) 同時代のヨーロッパとは対照的な米国の建築動向（シカゴ派）の特徴、建築、建築家がわかる。	
必修・選択	必修	05) 装飾の排除と復活という矛盾の解決策として生まれた「工芸＝工業と芸術の統合＝デザイン」の背景と意味がわかる。	
省庁分類	20.②建築計画	06) デザインという思想を確立し世界にこれを普及したバウハウスの誕生と背景、影響を与えた建築や建築家がわかる。	
授業形態	講義	07) コルビュジェの「近代建築5原則」や彼の代表作（サヴォイ邸、ユタダビルヂング、ロサン教会堂）の特徴がわかる。	
作成者	大室 浩明	08) FLライトの「有機的建築」の考え方や彼の代表作（ユツニアウス、落水荘、グッゲンハム美術館）の特徴がわかる。	
教科書	コバノ出版建築史	09) ミースの「Less is more」の考え方や彼の代表作（ファン・ワース邸、バルセロナビルヂング）の特徴がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 機能主義建築の問題点とその解決策としてのポストモダニズムの現状や代表的建築家がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	－		
備考	建築設計の実務経験がある教員が、歴史やデザインを考えた設計思想などを教える。		

No	3035102	科目コード	1020901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めするために必要不可欠なものです。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：今期は空調調設備について学習します。空調負荷、空調方式、空調調機、熱源設備、配管設備、ダクト設備などを中心に学習します。	
期	5		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備2	01) 空調調の目的、室内環境基準がわかる。	
単位	1	02) 空調負荷の種類や顕熱負荷・潜熱負荷がわかる。	
履修時間	15	03) 空調負荷計算の方法がわかる。	
回数	8	04) 各種空調方式の種類、システム構成、特徴、用途がわかる。	
必修・選択	必修	05) 空調調機、ファンコイルユニットの種類としくみがわかる。	
省庁分類	22.④建築設備	06) 冷媒方式の種類と特徴がわかる。	
授業形態	講義	07) 冷凍機のしくみ（原理）がわかる。	
作成者	今野 祐二	08) 熱源機器（冷凍機やボイラー等）の種類と用途がわかる。	
教科書	図解 建築設備の知識	09) 配管設備やダクト設備の概要がわかる。	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑧⑨		
備考			

No	3035103	科目コード	1021101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとしても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：静定構造物の反力演習をこなし理解度を深め、後半から構造物内部に発生する「断面力（応力）」について学習します。応力図を正確に描き、部材内部の力を理解し、弱点や補強ポイントの判断ができるようになります。	
期	5		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学2	01) 構造物を力学的計算を行うために荷重モデルに置き換えができる。	
単位	1	02) 構造物を「判別式」より、不安定・安定・静定・不静定に区別できる。	
履修時間	15	03) 荷重モデルを正確に読み取ることができる。	
回数	8	04) 「力のつり合い条件式」を理解し、構造物の釣り合っている状態がわかる。	
必修・選択	必修	05) 静定構造物（単純梁・片持ち梁・ラーメン）を解き、発生する反力がわかる。	
省庁分類	23.⑤構造力学	06) 静定構造物の反力より、正確な荷重図を作図できる。	
授業形態	講義	07) 構造物に発生する外力と内力を種類分けできる。	
作成者	野上 和裕	08) 構造物内に発生する断面力（応力）の種類がわかる。	
教科書	建築構造力学 新版（初学者の建築講座）	09) 断面力（応力）の正負の方向性を理解し、構造物内の力の流れがわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 荷重図より、応力図（軸方向力・せん断力・曲げモーメント力）を作図できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④		
備考			

No	3035104	科目コード	1021901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一般・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：引き続き「建築基準法」を学びます。前半は各種手続きに関する規定を、後半は建築物の構造耐力に関する規定を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。	
期	5		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規4	01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
単位	1	02) 建築基準法の「確認申請」「中間検査」「完了検査」及び「建築主事」「指定確認検査機関」の意味とそれぞれの関係がわかる。	
履修時間	15	03) 建築基準法上、確認済証の取得が必要かどうかを判断ができる。	
回数	8	04) 建築基準法の「各種手続き」に関する規定について、それぞれの規定の概要及び基本の考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築基準法の「構造強度」に関する規定について、全体構成、概要、及び基本の調べ方がわかる。	
省庁分類	28.⑨建築法規	06) 建築基準法の「構造強度・木造」に関する規定について、原則及び主な例外的読み取り方がわかる。	
授業形態	講義	07) 建築基準法「構造強度・木造」に関する規定うち、「柱の小径」「構造耐力上必要な軸組等」について、必要な寸法を実際に計算ができる。	
作成者	上岡 加奈	08) 建築基準法の「構造強度」に関する規定うち、「補強コンクリートブロック造」「鉄骨造」「鉄筋コンクリート造」について、原則及び主な例外的読み取り方がわかる。	
教科書	建築関係法令集	09) 建築基準法の「構造強度」に関する規定うち「基礎」については、「基礎」の項目のほかに「鉄筋コンクリート造」の項目も含めて調べることができる。	
確認者	野上 和裕	10) 建築基準法の「構造強度」に関する規定うち「構造計算」の各項目について、それぞれの概要、及び原則・主な例外的読み取り方がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【82点】＋毎週の課題提出により【18点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	④⑦		
備考	建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。		

No	3035105	科目コード	1022301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：設計者において、施工まで考えた図面とは意匠図とは異なり細かな表現が必要です。住宅は条件によって毎回異なった図面となります。二級建築士実技試験も同様であり、試験に則した範囲の作図が必要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：二級建築士の木造課題の範囲を理解し、要求図面を過不足なく設計・製図することが重要であり、時間管理と共に課題に合わせた回答を描き切る練習を行い、二級建築士実技試験に対応します。	
期	5		
教科名	設計製図演習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	設計製図演習4	01) 二級建築士の実技試験のルールを知り、求められる範囲がわかる。	
単位	1	02) 二級建築士の実技試験の課題の種類に対して、描き上げる図面の範囲がわかる。	
履修時間	15	03) 課題文から求められている条件を元に、エスキースにて住宅の大まかなサイズがわかる。	
回数	8	04) 各階平面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。	
必修・選択	必修	05) 立面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。	
省庁分類	-	06) 矩計図（又は断面、部分詳細）に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。	
授業形態	演習	07) 2階床伏図兼1階小屋伏図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。	
作成者	又野 寛子	08) 面積を正確に計算し、面積表が作成できる。	
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト	09) 計画の要点を整理、設計趣旨を所定の欄に指定された文字数の範囲で表現できる。	
確認者	野上 和裕	10) 時間管理を自分で行い、ペース配分の過不足を自分で判断できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	前半課題の提出により【50点】＋後半課題の提出により【50点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	③④⑤⑦		
備考	実務で必要な木造設計技術を教える必要があり、木造在来の経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3035106	科目コード	2020501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：建築製図実習4では、前期までに学習した内容を元に店舗併用住宅の設計を行います。210㎡規模の設計課題に取り組み、様々な条件による併用住宅を提案し、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。	
期	5		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習5	01) 確認申請に必要な建築物かどうかの判断ができ、手続きの流れがわかる。	
単位	1	02) 確認申請に必要な図面（意匠・構造）の種類がわかる。	
履修時間	45	03) 確認申請図として、建築計画概要・付近見取図を理解し作成できる。	
回数	23	04) 確認申請図として、配置図・求積図を理解し作図できる。	
必修・選択	必修	05) 確認申請図として、各階平面図を理解し作図できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 確認申請図として、二面以上の立面図・断面図を理解し作図できる。	
授業形態	実習	07) 確認申請図として、吸気・排気・感知器を理解し適切な個所に作図できる。	
作成者	佐藤 剛	08) 確認申請図として、各種伏図を理解し作図できる。	
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト	09) 確認申請図として、壁量計算を行い、壁量計算書を作成できる。	
確認者	野上 和裕	10) 設計図書に必要な各種図面をCAD製図にてまとめることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【40点】＋毎週の課題提出により【30点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	③④⑤⑦		
備考	木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。		

No	3035107	科目コード	2021001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：設計者として設計意図を建築に係わる人（施主・施工者など）に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められます。そのために立体表現やボードへのまとめの技術が必要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：大規模の木造住宅を題材にした図面を基に、3D CGや模型による表現をA2ボード2枚以上にまとめ、人に正確に魅力的に伝える手法を学びます。完成後にはプレゼンテーションによる発表を行います。	
期	5		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習5	01) 平面図・立面図などを読み取り、立体化できる。	
単位	1	02) パースを作成するにあたり、制作に必要なレイヤ構成を考えレイヤー分けができる。	
履修時間	30	03) 図面を基に一部2階建ての建物の躯体部分のモデリングができる。	
回数	15	04) 図面を基に窓や間仕切りを精度良く配置・モデリングできる。	
必修・選択	必修	05) 図面を基に階段や玄関など高低差の部分に必要な応じて手すりやスロープを含め適切にモデリングできる。	
省庁分類	-	06) エクステリアやインテリアを設計趣旨に沿って作成できる。	
授業形態	実習	07) 敷地内のモデリングをはじめ外構を設計趣旨に沿って表現できる。	
作成者	岩石 純	08) 前面道路・隣地など周辺環境を計画地に合わせて表現できる。	
教科書	やさしく学ぶSketchUp	09) プレゼンボードに図面やダイアグラム、3DCG、模型写真、素材情報など記載・レイアウトできる。	
確認者	野上 和裕	10) 見る人を考え、伝えやすいレイアウト、文章を考え、A2用紙2枚以上に自分の考えを表現できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【60点】＋毎週の課題提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	②		
備考	実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3035108	科目コード	2040401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2024年度		
学年	1年次	学習内容：5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います。	
期	5		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト4	01) 問題解決に向け、問題点を発見し必要に応じて計画を修正することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、修正した計画を実行することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録することができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、最後まで仲間と協力して行動することができる。	
省庁分類	-	06) 成果報告に向け、問題の発見から解決までに作成してきた資料を整理することができる。	
授業形態	実習	07) 成果報告に向け、資料に基づき、問題解決に取り組む意義、方法、成果等を報告書にまとめることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 成果発表に際し、筋道立ったわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。	
教科書	-	09) 成果発表に際し、聴衆を引き付けるプレゼンテーションを行うことができる。	
確認者	野上 和裕	10) 成果発表を終え、問題点・不足点・今後の課題等を整理・報告することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。 ③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびレーダーチャート」を用いて記録する。	
該当DP	-		
備考			

No	3031201	科目コード	1030102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：集合住宅・公共建築は建築分野を学習する者にとって多くの実績のある用途の一つです。基本的な計画と実例を学ぶことは今後建築に関わる者としてとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：集合住宅：図書館：学校について計画の方法を学習します。高度に複雑化する現代社会の中で、それぞれの建築物がどのような特徴をもって成り立っているのか理解を深めます。	
期	1		
教科名	建築計画	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築計画2	01) 建築研究1/集合住宅1： 集合住宅を計画する上で住棟計画（配置計画）の注意点がわかる。	
単位	1	02) 建築研究2/集合住宅2： 住戸内の計画を進める為の注意点がわかる。	
履修時間	15	03) 集合住宅3/ハーレン・ジードルン： 実例を見る事で集合住宅の計画手法の一端を知る事ができる。	
回数	8	04) 建築研究4/図書館： 図書館を計画する上で専門用語を知り、具体的な計画例での活用方法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築研究5/学校： 教室配置形式の種類、内容、特徴を知る事ができる。	
省庁分類	20.②建築計画	06) 建築研究6/学校（実例研究）： 実例を見る事で学校の計画手法の一端を知る事ができる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	清 孝英	08)	
教科書	やさしい建築計画	09)	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3031202	科目コード	1030402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：構造力学3では、様々な静定構造物に発生する反力より、応力を求め応力図を正確に描けるように繰り返し練習します。後半では静定トラス構造を学び、トラス構造における力の流れを理解します。	
期	1		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学3	01) 建築構造物を構造計算を行うために、正確にもモデル化できる。	
単位	1	02) 静定構造物をつり合い条件式を用いて、反力計算ができる。	
履修時間	15	03) 静定構造物の反力を元に、正確な荷重図作成ができる。	
回数	8	04) 静定構造物の荷重図より、各応力図（N図、Q図、M図）が作成できる。	
必修・選択	必修	05) せん断力図（Q図）より、柱・梁においてせん断力が最も発生しているの位置がわかる。	
省庁分類	23.⑤構造力学	06) 曲げモーメント力図（M図）より、柱・梁において引張力が最も発生しているの位置・側がわかる。	
授業形態	講義	07) トラス構造の条件・構造のモデルがわかる。	
作成者	野上 和裕	08) トラス構造の種類・特性がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学	09) トラス構造物を節点つり合い法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。	
確認者	野上 和裕	10) トラス構造物をリッターの切断法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考			

No	3031203	科目コード	1030702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることがとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：コンクリートはそれが実現できる建物規模に対して、比較的安価な材料であるといわれていますが、ひび割れ等の不具合も発生します。鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットについて学んでいきます。	
期	1		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造2	01) 鉄筋コンクリートの発生から現代までの歴史がわかる。	
単位	1	02) 鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットがわかる。	
履修時間	15	03) 鉄筋コンクリート構造の形式の種類が判別できる。	
回数	8	04) 鉄筋コンクリートを構成する材料がわかる。	
必修・選択	必修	05) コンクリートの種類と、それぞれの注意点がわかる。	
省庁分類	24.⑥建築一般構造	06) 鉄筋コンクリートの力学的性質がわかる。	
授業形態	講義	07) ラーメン構造、壁構造、そのほか構造の特徴を説明することができる。	
作成者	宮坂 達	08) コンクリートのひび割れ等の不具合がわかり、その対策がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造	09) 柱・梁部材の断面算定と許容応力度の関係がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 鉄筋コンクリート構建造物の部位の名称がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な鉄筋コンクリート造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3031204	科目コード	1031002
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：卒業後に建設現場に行った際に、施工の現場で何の作業をし、その施工方法、注意事項がどんな所なのかを理解し、即戦力たる人材を育成する事が目的です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：仮設：土工事から始まり、主要構造体の鉄筋コンクリート造と鉄骨造に関して、作業計画・施工方法・品質管理ポイントに関して学びます。	
期	1		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工2	01) Q C D Sと共に、施工管理・設計監理の違いや、生産管理の流れの大局がわかる。	
単位	1	02) 地盤調査の種類、杭工事・地盤改良工事の種類や施工方法の違いがわかる。	
履修時間	15	03) 山留工事の種類や、山留支保工の種類、地盤状況の違いでの施工方法の違い、湧水処理の種類がわかる。	
回数	8	04) 型枠建込の流れ、型枠に使用する部材の名称、型枠存置期間がわかる。	
必修・選択	必修	05) 配筋の各部の名称や、施工時の注意事項としてのかぶりや鉄筋ピッチ・定着・圧接がわかる。	
省庁分類	34.⑧建築生産	06) コンクリートのワーカビリティやコンシステンシー、受入れ時・打設時の品質管理項目がわかる。	
授業形態	講義	07) ファブでの鉄骨加工の流れ、各部の名称や溶接の種類、超音波探傷試験がわかる。	
作成者	片倉 啓太	08) 鉄骨建方全体の流れ、建方方法、建て入れ直しや仮設部材がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築施工	09) 高力ボルト接合時の品質管理、現場溶接時の注意事項がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) デッキプレートやシアコネクタの重要性、耐火被覆の種類がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。		

No	3031205	科目コード	1031502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：「建築基準法」のうち、各種手続きに関わる「確認申請・中間検査・完了検査」「報告」「届出」や、「建築基準法以外の主な法」を取り上げ、概要を理解し、法令集で関連条文を調べるように学習します。	
期	1		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規5	01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
単位	1	02) 建築基準法の「確認申請・中間検査・完了検査」については、目的、それぞれの関係性、及び「指定確認検査機関」と	
履修時間	15	03) 建築基準法の各種手続きに関する条文から、それぞれの規定を正しく解釈することができる。	
回数	8	04) 「建築士法」について、その目的・概要を知るために条文を正しく解釈することができる。	
必修・選択	必修	05) 「建設業法」について、その目的・概要を知るために条文を正しく解釈することができる。	
省庁分類	-	06) 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」について、その目的・概要を知るために条文を正しく解釈することができる。	
授業形態	講義	07) 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」について、その目的・概要を知るために条文を正しく解釈	
作成者	上岡 加奈	08) 「都市計画法」について、その目的・概要を知るために条文を正しく解釈することができる。	
教科書	建築関係法令集	09) 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」について、その目的・概要を知るために条文を正しく解釈することができる	
確認者	野上 和裕	10) その他の主な法律（消防法、エネルギーの使用の合理化等に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設工	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。		

No	3031206	科目コード	1031702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：施工を意識した実務レベルの図面のために、描き込み密度を理解すると共に、条件によって毎回異なる住宅図面に対応するために、パターン演習をこなし応用力を身に付け条件に適合した図面を描き上げ技術が必要となります。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：集合住宅の住戸プランをパターン演習により様々な条件に合わせて提案できるように演習を行います。また、施工を意識した詳細図として仕上げより実践的な図面を作図できるように学習します。	
期	1		
教科名	設計製図演習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	設計製図演習5	01) 集合住宅に求められている要素を適切に判断できる。	
単位	1	02) 実例の図面から図面内容を読み取り、現物をイメージできる。	
履修時間	15	03) 基本的なRC造ラーメン構造において、柱芯と壁芯の違いを理解し適切な寸法で作図できる。	
回数	8	04) 住戸プランにおいて、平面詳細図に求められている書き込み範囲がわかる。	
必修・選択	必修	05) 柱・梁の断面寸法を求め、適切な範囲に配置することができる。	
省庁分類	-	06) 下地と仕上げを意識した平面詳細図が作図できる。	
授業形態	演習	07) 基本的なRC造ラーメン構造において、断面図に求められている作図範囲がわかる。	
作成者	清 孝英	08) 下地と仕上げを意識した断面図が作図できる。	
教科書	建築設計テキスト 集合住宅	09) 部分詳細図を作図することで、線分を理解しながらディティールがわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 様々な図面を読み取ることで、自分で考えた設計に応用できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【40点】＋毎週の課題提出により【30点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	実務で必要なBIM技術を教える必要があり、実施設計経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3031207	科目コード	2030102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：1年次に学習した木造住宅をベースにRC造の集合住宅の設計を行います。500㎡から1500㎡規模の集合住宅の設計課題に取り組み、共用部を意識した提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。	
期	1		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習6	01) 鉄筋コンクリート構造を理解し、柱・梁のラーメン構造の仕組みがわかる。	
単位	2	02) ラーメン構造と壁式構造の違いを理解し、適切な構造を選択できる。	
履修時間	60	03) 基本スパンより、柱・梁の断面を求められ、適切なスラブ厚がわかる。	
回数	30	04) 主要構造部材の存在を理解し、EVやボイド等作ることができない場所を判断できる。	
必修・選択	必修	05) 住戸計画より、適切なスパンを選択し、住戸・住棟の面積を算出できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 廊下・バルコニー・避難、その他共有部を理解し、適切な寸法・距離を確保して設計できる。	
授業形態	実習	07) 水回り、MB、PS、設備空間を理解し、無理のない寸法で設計できる。	
作成者	上岡 加奈	08) 集合住宅の敷地内に求められる、駐輪・駐車・ゴミ置き場等駐車分離を意識し適切な数量で設計できる。	
教科書	建築設計テキスト 集合住宅	09) 課題1. 賃貸集合住宅＋（クライアントの）住宅を設計し、各種図面を作図し、提案できる。	
確認者	野上 和裕	10) 課題2. 賃貸集合住宅を設計し、各種図面を作図し、提案できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【40点】＋毎週の課題提出により【30点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	－		
備考	鉄筋コンクリート造の設計の実務経験がある教員が、鉄筋コンクリート造に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。		

No	3032201	科目コード	1030202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：各公共施設の概要・歴史的背景、具体的な運用内容等の知識を身に付けることは、建物の計画・設計のみならず、将来の「現場監督」の基本的な教養・基本知識として関連業種を業務を円滑に進める上で重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：テキスト、パワーポイント資料を活用しながら、各「公共」施設の概要・構成・施設の運用方法等を解説し、授業の最後には、カルテによって基本的な知識の習得度を確認します。	
期	2		
教科名	建築計画	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築計画3	01) 現在建設が進む公共建築（施設）には、どのようなものがあるのかわかる。	
単位	1	02) 「事務所ビル」や公共建築物が発展してきた歴史的背景がわかる。	
履修時間	15	03) 「事務所ビル」の基本計画・各部設計の概要がわかる。	
回数	8	04) 「劇場、コンサートホール」の種類や構成内容がわかる。。	
必修・選択	必修	05) 「商業施設」、「ホテル等の宿泊施設」の計画概要、各部計画の内容がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) 「博物館・美術館」の構成内容がわかる。	
授業形態	講義	07) 「病院等の医療施設」の構成内容がわかる。	
作成者	清 孝英	08) 「高齢者施設」の種類とその内容がわかる。	
教科書	やさしい建築計画	09)	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	－		
備考	実務で必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3032202	科目コード	1030802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることとはとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：この科目では、鉄骨構造の概要を理解し、鉄骨（鋼）構造の骨組みや床組みを構成するための、加工・組立の基本的な知識を学ぶとともに、接合部分に関する特徴を学びます。	
期	2		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造3	01) 鉄骨構造の材料的発展及び構造計画の発展の歴史がわかる。	
単位	1	02) 鉄骨構造における各種構造形式がわかる。	
履修時間	15	03) 鉄骨構造のメリット・デメリットがわかる。	
回数	8	04) 鋼材の種類や機械的性質の違いがわかる。	
必修・選択	必修	05) 基準強度、許容応力度、降伏強度、引張強度、ヤング係数といった言葉の意味がわかる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 鉄骨構造における構造設計手法（保有水平耐力計算、限界耐力計算）等の概要がわかる。	
授業形態	講義	07) 引張部材、圧縮部材、曲げ部材といった各部の設計の概要がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) 接合方法とその特徴、管理の要点がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造	09)	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な鉄骨造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3032203	科目コード	1031202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築が生活空間として機能するためには、躯体に内外装材を施さなければならない。これらは、単に機能を付加するだけでなく、人間の感性に深く影響するので、その知識の習得は建築を学ぶ者にとって重要である。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：内外装材料の選択において、床・壁・天井とそれぞれの部位における材料の種類とその特徴を理解し、適切な選択ができるように体系的に学びます。さらにはそれらの下地も含めた取り付け方法について学びます。	
期	2		
教科名	建築材料	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料2	01) 床の仕上げ材の種類とその特徴がわかり、適切な選択ができる。	
単位	1	02) 壁の仕上げ材の種類とその特徴がわかり、適切な選択ができる。	
履修時間	15	03) 天井の仕上げ材の種類とその特徴がわかり、適切な選択ができる。	
回数	8	04) 各部位の下地材の種類とその特徴がわかり、取り付け方法の注意点がわかる。	
必修・選択	必修	05) 各種パネル材料の種類とその特徴がわかり、取り付け方法の注意点がわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) 断熱に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。	
授業形態	講義	07) 防火に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。	
作成者	宮坂 達	08) シックハウス対策における注意点がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築材料	09) 開口部材の各部位の名称がわかる。	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	－		
備考	実務で必要な仕上げ材に関する知識・施工技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3032204	科目コード	1031802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：設計者において、施工まで考えた図面とは意匠図とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりがより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：Autodesk Revitの概念を知り、基本操作の習得の後、オフィス建築を題材に実際の住宅結成を行うことでより実践的なモデリングと図面への書き出し作業を学習します。	
期	2		
教科名	設計製図演習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	設計製図演習6	01) AutodeskRevitのインストールを行い、インターフェース、画面構成がわかる。	
単位	1	02) AutodeskRevitのメニューや画面などマウスでの操作も合わせて基本的な操作の流れがわかる。	
履修時間	15	03) Revitでモデリングするための準備（敷地・通り芯・外壁・界壁・間仕切り壁・建具）ができる。	
回数	8	04) Revitでモデリング（レベルの作成・2Dデータの挿入・各部分のモデリング・グループ化）ができる。	
必修・選択	必修	05) Revitでモデリング（各部分の確認・修正・編集・設定）ができる。	
省庁分類	－	06) Revitでプレゼンテーション（マテリアル）の設定ができる。	
授業形態	演習	07) Revitでプレゼンテーション（方角・場所・太陽）の設定ができる。	
作成者	清 孝英	08) Revitでプレゼンテーション（パースビューの作成）の設定ができる。	
教科書	はじめてのRevit&Revit LT	09) Revitでプレゼンテーション（家具を配置したショットパース）の設定ができる。	
確認者	野上 和裕	10) Revitでプレゼンテーション（3Dビューを利用した外観パース）の設定ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【40点】＋毎週の課題提出により【30点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	－		
備考	実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。		

No	3032205	科目コード	2030202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度	学習内容：RCラーメン構造を基本に、公共建築物の設計を行います。保育園や福祉施設の設計課題に取り組み、サービス側・利用者側など区分を意識した提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。	
学年	2年次		
期	2		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習7	01) RC造ラーメン構造の復習として、基本的な構造、その特徴がわかる。	
単位	2	02) RC造ラーメン構造の復習として、柱・梁・スパン・断面寸法を自分で決めることができる。	
履修時間	60	03) 非住宅系の建物が住宅系の建物とどのような部分が異なるのかわかる。	
回数	30	04) 設備・構造を理解し、PSや設備スペースがどのように収められているかわかる。	
必修・選択	必修	05) 非住宅系（商業施設/公共施設）の利用者の種類を知り、複数動線を考え、適切かどうか判断できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 非住宅系（商業施設/公共施設）に対してバリアフリー、ユニバーサルデザインの活用を考え、適切かどうか判断できる。	
授業形態	実習	07) 非住宅系（商業施設/公共施設）の長期利用やメンテナンスを意識し、提案が適切かどうか判断できる。	
作成者	上岡 加奈	08) 非住宅系（商業施設/公共施設）の非常時の安全性を意識し、避難経路などが適切かどうか判断できる。	
教科書	-	09) 課題1. 保育園を設計し、各種図面を作図し、提案できる。	
確認者	野上 和裕	10) 課題2. 図書館を設計し、各種図面を作図し、提案できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【40点】＋毎週の課題提出により【30点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	鉄筋コンクリート造の設計の実務経験がある教員が、鉄筋コンクリート造に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。		

No	3032206	科目コード	2030602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：設計者として設計意図を建築に係わる人（施主・施工者など）に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められる。そのために立体表現やボードへのまとめの技術が必要です。	
年度	2024年度	学習内容：前期に設計した「集客住宅」をプレゼンテーションボードへとまとめます。敷地に対する全体計画、共用部の扱い、住戸をはじめ専有部等複数の人が関わる部分を明確に分け表現する手法を学びます。	
学年	2年次		
期	2		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習6	01) 1期課題の整理と各自の図面のチェックを行い、構造・法規ともに適切かどうか判断できる。	
単位	1	02) 設計条件・敷地条件を整理し、コンセプトの合わせたレイアウトとなるように仮レイアウトが作成できる。	
履修時間	30	03) プレゼンボードを設定し、各種図面を適切な縮尺でレイアウトし、仮印刷し、図面尺度が適切かどうか判断できる。	
回数	15	04) 模型・3Dモデリングに合わせて2D図面を適切に作り替えることができる。	
必修・選択	必修	05) 3DCADにおいて、コンセプトに合わせたモデリングが行え、適切なマテリアルが設定できる。	
省庁分類	-	06) 3DCADにおいて、レイアウトに合わせたカメラアングルやレンダリングが行え、適切な画像が準備できる。	
授業形態	実習	07) 模型において、適切な尺度にて部材を切り出し、組み立てができる。	
作成者	野上 和裕	08) 模型において、素材や周辺環境を作り込み、適切な範囲で写真撮影ができる。	
教科書	-	09) プレゼンボードの適切な位置に各種素材を配置し、設計の特徴が伝わる表現ができる。	
確認者	野上 和裕	10) プレゼンボードを利用し、他人に自分の考えを説明できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【60点】＋最終完成作品の提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。		

No	J032207	科目コード	2040502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2024年度	学習内容：2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組みます。	
学年	2年次		
期	2		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト5	01) 問題発見に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題発見に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題発見に向け、技術者としての問題意識をもって、現状の問題点を指摘することができる。	
回数	15	04) 問題発見に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題発見に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
省庁分類	-	06) 問題発見に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題設定に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題設定に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
教科書	-	09) 問題設定に向け、現状の問題点から解決すべき課題を提案することができる。	
確認者	野上 和裕	10) 問題発見をとおして設定した課題の社会的な意義等を適切に説明することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。 ③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびレーダーチャート」を用いて記録する。	
該当DP	-		
備考	建築に関わる幅広い実務経験がある教員が、問題解決に合わせた実務的テクニックを教える。		

No	J032208	科目コード	2060202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建設現場において監督の行う墨出（測設）は、建物の品質を左右する重要な作業である。現代建築において墨出は、トランシットなどの光学機器を使用して行うことから、その操作は必須である。	
年度	2024年度	学習内容：トランシットの標定（据付）とそれを使って角度を読み取り、その結果を検証し誤差を修正する方法を学ぶとともに、度分秒の四則計算や三角関数を使った寸法の計算方法も学びます。	
学年	2年次		
期	2		
教科名	測量実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	測量実習2	01) トランシットの操作方法、標定の方法がわかる	
単位	1	02) トランシットのバーニヤを使って、角度の読み取りができる	
履修時間	30	03) 読み取った角度の補正ができる	
回数	15	04) 度分秒の角度の四則演算ができる。三角関数を使って、未知の寸法が計算できる	
必修・選択	必修	05) トランシットを使って、逃げ墨が作れる（測設）	
省庁分類	32. ⑩その他	06) 放射法と導線法を使って、多角形の測量ができる	
授業形態	実習	07) 測量した多角形の面積が計算できる（座標法による面積計算）	
作成者	野上 和裕	08) トランシットを使って、垂直方向の角度計測を行い、高さの測量ができる	
教科書	図解土木講座「測量学」	09)	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考			

No	3033201	科目コード	1030302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めるために必要不可欠なものです。	
年度	2024年度	学習内容：本講義では、「建築設備の概要」から「給排水衛生設備」、「空調設備」、「電気設備」について、建築技術者として、建築の計画・設計、施工を行う上で必要な知識を学んでいきます。	
学年	2年次		
期	3		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備3	01) 事務所ビルの建築設備、戸建住宅と集合住宅の建築設備の違いを区別することができる。	
単位	2	02) 地球温暖化の主原因であるCO2の排出量について、部門別について考えることができる。	
履修時間	30	03) 戸建て住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。	
回数	15	04) 集合住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。	
必修・選択	必修	05) 戸建て住宅の空調設備・換気設備を計画することができる。	
省庁分類	22. ④建築設備	06) ビルの空調設備の主な空調方式とその特徴がわかる。	
授業形態	講義	07) ビルの空調設備の系統図・ダクト図・配管図・機械室ダクト図等を理解し説明することができる。	
作成者	今野 祐二	08) 建物内の受変電設備の仕組みを理解することができる。	
教科書	図解 建築設備の知識	09) 建物内の電気幹線設備・動力設備の特徴を理解することができる。	
確認者	野上 和裕	10) 建物内の自家発電設備・蓄電池設備・照明設備・コンセント設備の特徴がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考			

No	3033202	科目コード	1030502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれている。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2024年度	学習内容：構造力学4では、静定構造物の復習の後、断面の各性質（断面1次・断面2次・断面係数・応力度・たわみ・座屈）を計算より求め、構造設計の判断の元となる数値を正確に求められるようになります。	
期	3	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	構造力学	01) 静定構造物（復習）荷重・反力・応力）の構造計算ができる。	
科目名	構造力学4	02) 軸方向力と断面積の関係がイメージできる。	
単位	1	03) 材料による強さ（ヤング係数）の違いがイメージできる。	
履修時間	15	04) 曲げモーメント力と形状による剛さの関係がイメージできる。	
回数	8	05) 断面1次モーメントを利用し、図形の中心がわかる。	
必修・選択	必修	06) 断面2次モーメントを利用し、強軸と弱軸の方向を判別し、梁の適切な使用方向がわかる。	
省庁分類	23. ⑤構造力学	07) 断面係数を利用し、縁応力度がわかる。	
授業形態	講義	08) 応力度（垂直応力度・せん断応力度）を求めるために、適切な計算式を組み立てることができる。	
作成者	野上 和裕	09) 梁のたわみ（量・角）を、荷重の種類、梁の形状より適切な公式を判断し、値を求めることができる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学	10) 長柱の形状より座屈長さを求め、計算により弾性座屈荷重がわかる。	
確認者	野上 和裕	評価方法	
最終確認者	井坂 昭司	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
実務教員	-		
該当DP	-		
備考			

No	3033203	科目コード	1030902
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることとはとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：建物の基礎構造形式の種類とその特徴について学んでいくとともに、基礎が設置される地盤面に関する基本的な知識を習得します。災害事例を踏まえ、地盤対策についても学びます。	
期	3	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築一般構造	01) 基礎の種類とその特徴がわかり、構造図から、どのような基礎であるか判断できる。	
科目名	建築一般構造4	02) 地層の種類とその特徴がわかる。	
単位	1	03) 地盤調査の種類とその目的がわかり、その概要が説明できる。	
履修時間	15	04) 標準貫入試験の内容がわかり、柱状図やN値について概要が説明ができる。	
回数	8	05) せん断強さ、粘着力、摩擦角、圧密沈下といった性質がわかり、概要を説明できる。	
必修・選択	必修	06) 液状化現象がわかり、その対策も含め概要が説明できる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	07) 直接基礎の種類がわかり、その選定上の留意点がわかる。	
授業形態	講義	08) 杭基礎の種類がわかり、その選定上の留意点がわかる。	
作成者	宮坂 達	09) 地盤の許容地耐力、許容支持力、許容沈下量の概要がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造	10)	
確認者	野上 和裕	評価方法	
最終確認者	井坂 昭司	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
実務教員	○		
該当DP	-		
備考	実務で必要な基礎・仕上げ技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3033204	科目コード	1031102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：施工管理の面で、「防水工事」や「仕上工事」は、その内容が複雑で細心の注意を必要とするものであり、現段階でその概要や基礎的な知識を身に付けることは、今後の学習の理解を深める上でも非常に需要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：パワーポイントで作成された資料を基本として、各工事の概要・具体的な内容を解説すると共に、実際の現場でそれら各工事がどのような流れで計画され、施工されるのかを確認していきます。	
期	3		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工3	01) 「屋上・防水工事」の種類や各工法がわかる。	
単位	1	02) 「屋根工事」の種類や各工法がわかる。	
履修時間	15	03) 実際の工事現場で、「仕上工事」が時系列的にどのようなタイミングで施工されるのかがわかる。	
回数	8	04) 施工管理業務の中で、「仕上工事」の重要性がわかる。	
必修・選択	必修	05) 塗装、金属、内装、石・タイル工事等の「各仕上工事」の概要と詳細項目がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 他工種（設備工事等の関連工事）との関係性がわかる。	
授業形態	講義	07) 「仕上工事」に関する現場での課題（問題）がわかる。	
作成者	片倉 啓太	08) 「設備工事」についての概要がわかる	
教科書	初学者の建築講座 建築施工	09) 「メンテナンス」や「瑕疵担保」に関する内容（概要）がわかる。	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。		

No	3033205	科目コード	1031302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築材料1、2で学んだ素材が、建築物の具体的な部位となるとときに、どのような観点で素材を選定しなければならないのかを、法規や機能を踏まえて学んでいきます。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：建築の内外装の仕上げとなる石材、タイル、レンガ、ガラス、非鉄金属材料、塗料、左官材料といった具体的な材料に関する基本的な知識を学んでいきます。	
期	3		
教科名	建築材料	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料3	01) 石材の種類と特徴がわかり、適切な工法の選定ができる。	
単位	1	02) 非鉄金属材料の種類と特徴がわかり、部材製作時の注意点と施工管理時の注意点がわかる。	
履修時間	15	03) ガラスの種類と特徴がわかり、適切な材料選定ができる。	
回数	8	04) レンガの概要がわかり、レンガの積み方の違いによる施工管理上の注意点がわかる。	
必修・選択	必修	05) 粘土瓦の概要がわかり、瓦の種類の違いによる施工管理上の注意点がわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) 左官材料の種類と特徴がわかり、施工管理上の注意点がわかる。	
授業形態	講義	07) 塗料、仕上げ塗料の種類と特徴がわかり、適切な材料選定ができる。	
作成者	宮坂 達	08) シックハウス症候群の概要がわかり、仕上げ材料における適切な材料選定ができる。	
教科書	初学者の建築講座 建築材料	09)	
確認者	野上 和裕	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	－		
備考	実務で必要な仕上げ材に関する知識・施工技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。		

No		3033206	科目コード	1031902
系	建築・インテリア系		シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科		必要性：設計者において、施工まで考えた図面とは意匠図とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。	
年度	2024年度			
学年	2年次		学習内容：前期に学習した内容を活用し、建築製図実習8にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間での設計・製図技術の向上を目指し学習します。	
期	3			
教科名	設計製図演習		科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	設計製図演習7		01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始められるようにデータ整理ができる。	
単位	1		02) AutoCADにて、基本的な情報を作図し、モデリングの元のデータを簡単に作図できる。	
履修時間	15		03) Revitでモデリングするための準備（敷地・通り芯・外壁・界壁・間仕切り壁・建具）ができる。	
回数	8		04) Revitでモデリング（レベルの作成・2Dデータの挿入・各部分のモデリング・グループ化）ができる。	
必修・選択	必修		05) Revitでモデリング（各部分の確認・修正・編集・設定）ができる。	
省庁分類	-		06) Revitでプレゼンテーション（マテリアル）の設定ができる。	
授業形態	演習		07) Revitでプレゼンテーション（方角・場所・太陽）の設定ができる。	
作成者	清 孝英		08) Revitでプレゼンテーション（パースビューの作成）の設定ができる。	
教科書	はじめてのRevit&Revit LT		09) Revitでプレゼンテーション（家具を配置したショットパース）の設定ができる。	
確認者	野上 和裕		10) Revitでプレゼンテーション（3Dビューを利用した外観パース）の設定ができる。	
最終確認者	井坂 昭司		評価方法	
実務教員	○		筆記試験による履修判定試験により【40点】＋モデリング課題提出により【30点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-			
備考	実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。			

No		3033207	科目コード	2030302
系	建築・インテリア系		シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科		必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度			
学年	2年次		学習内容：S造によるオフィス設計を行います、中規模から大規模の設計課題に取り組み、コア・共用部・賃貸部を収益率を意識した区分けを行い、実用的な提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面に仕上げます。	
期	3			
教科名	建築製図実習		科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習8		01) 鉄骨造を理解し、柱・梁のラーメン構造の仕組みがわかる。	
単位	1		02) 基本スパンより、柱・梁の断面を求められ、スラブ・外壁の取り付け方がわかる。	
履修時間	45		03) オフィス建築の性能や多様スタイルにこたえられるフレキシブル性など求められる性能がわかる。	
回数	23		04) オフィス建築の一般的なタイプ（コアの考え方）やレントابل比を求め、適切かどうか判断できる。	
必修・選択	必修		05) オフィス建築の利用者の種類を知り、複数動線を考え、適切かどうか判断できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図		06) オフィス建築に対してバリアフリー、ユニバーサルデザインの活用を考え、適切かどうか判断できる。	
授業形態	実習		07) オフィス建築の長期利用やメンテナンスを意識し、提案が適切かどうか判断できる。	
作成者	上岡 加奈		08) オフィス建築の非常時の安全性を意識し、避難経路などが適切かどうか判断できる。	
教科書	-		09) 課題1. 中規模オフィス建築を設計し、各種図面を作図し、提案できる。	
確認者	野上 和裕		10) 課題2. 店舗併用の大規模オフィス建築を設計し、各種図面を作図し、提案できる。	
最終確認者	井坂 昭司		評価方法	
実務教員	○		筆記試験による履修判定試験により【40点】＋毎週の課題提出により【30点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-			
備考	鉄骨造の設計の実務経験がある教員が、鉄骨造に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。			

No	3033208	科目コード	2030702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：設計者として設計意図を建築に係わる人（施主・施工者など）に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められる。そのために立体表現やボードへのまとめの技術が必要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：前期に設計した「公共建築」をプレゼンテーションボードへとまとめます。敷地に対する全体計画、共用部の扱い、近隣や利用者の動線、複数の人が関わる部分を明確に分け表現する手法を学びます。	
期	3		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習7	01) 2期課題の整理と各自の図面のチェックを行い、構造・法規ともに適切かどうか判断できる。	
単位	1	02) 設計条件・敷地条件を整理し、コンセプトの合わせたレイアウトとなるように仮レイアウトが作成できる。	
履修時間	30	03) プレゼンボードを設定し、各種図面を適切な縮尺でレイアウトし、仮印刷し、図面尺度が適切かどうか判断できる。	
回数	15	04) 模型・3Dモデリングに合わせて2D図面を適切に作り替ええる。	
必修・選択	必修	05) 3DCADにおいて、コンセプトに合わせたモデリングが行え、適切なマテリアルが設定できる。	
省庁分類	－	06) 3DCADにおいて、レイアウトに合わせたカメラアングルやレンダリングが行え、適切な画像が準備できる。	
授業形態	実習	07) 模型において、適切な尺度にて部材を切り出し、組み立てができる。	
作成者	野上 和裕	08) 模型において、素材や周辺環境を作り込み、適切な範囲で写真撮影ができる。	
教科書	－	09) プレゼンボードの適切な位置に各種素材を配置し、設計の特徴が伝わる表現ができる。	
確認者	野上 和裕	10) プレゼンボードを利用し、他人に自分の考えを説明できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【60点】＋最終完成作品の提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	－		
備考	実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。		

No	3033209	科目コード	2040602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	
期	3		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト6	01) 問題解決に向け、関連する情報を収集することができる。 02) 問題解決に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。 03) 問題解決に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。 04) 問題解決に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。 05) 問題解決に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。 06) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。 07) 問題解決に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。 08) 問題解決に向け、技術者として解決のための方法や手順を提案することができる。 09) 問題解決に向け、工程表および予算書を提案することができる。 10) 問題解決に向け、解決のための方法や手順を計画書（企画書）にまとめることができる。	
単位	1		
履修時間	30		
回数	15		
必修・選択	必修		
省庁分類	-		
授業形態	実習		
作成者	白井 雅哲		
教科書	-		
確認者	野上 和裕		
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。 ③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびレーダーチャート」を用いて記録する。	
該当DP	-		
備考	建築に関わる幅広い実務経験がある教員が、問題解決に合わせた実務的テクニックを教える。		

No	3034201	科目コード	1030602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれている。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：「応力・応力度」「断面の性質」「座屈」を繰り返し学習します。後半は「不静定構造物」に注目し、「ラーメン構造での力の流れ」「地震時の応力」「層せん断力」を理解し各部に発生する力の計算方法を学習します。	
期	4		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学5	01) 「垂直・鉛直・曲げモーメント」より発生する「垂直応力度」「曲げ応力度」の力の流れをイメージできる。	
単位	1	02) 「断面1次モーメント」より「図形の重心」を求めることができる。	
履修時間	15	03) 「断面2次モーメント」より「形による剛さ」を求めることができる。	
回数	8	04) 「断面係数」より図形の「縁の強さ」を求めることができる。	
必修・選択	必修	05) 「材料の剛さ（ヤング係数）」を知り、梁のたわみを求めることができる。	
省庁分類	23.⑤構造力学	06) 長柱の「座屈長さ係数」を知り、「弾性座屈荷重」を求めることができる。	
授業形態	講義	07) 「荷重図の合成・分解」を理解し、たわみ式を利用して「不静定構造物のモーメント図」を求めることができる。	
作成者	野上 和裕	08) 「剛度・剛比」「分割モーメント・到達モーメント」を理解し「不静定構造物のモーメント図」を求めることができる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学	09) せん断力と曲げモーメントの関係を理解し、ラーメン構造の各部に発生する「地震時の応力」を求めることができる。	
確認者	野上 和裕	10) 「層せん断力」の力の関係を理解し、多層多スパンのラーメン構造の各部に発生する「地震時の応力」を求めることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考			

No	3034202	科目コード	1031602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築に関わる者として施工の知識は必須であり、施工現場で実際に関わる法規・構造・設備等、建築の知識を施工管理を中心にまとめ上げます、複数の分野の知識を建築という学問にまとめ上げるためにも重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：施工管理技術者試験に向けて「建築学」「建築共通知識」「建築施工」「施工管理法」「法規」を系統立てて学ぶことで、「建築」という一つの知識にまとめ上げるように整理立てて学習します。	
期	4		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工4	01) 建築学（環境工学・一般構造・構造力学・建築材料）の知識を系統立てて整理できる。	
単位	6	02) 建築共通知識（舗装工事・植栽工事・建築設備、設計図書・測量・積算）の知識を系統立てて整理できる。	
履修時間	90	03) 建築施工（敷地に関わる工事・構造種類に関わる工事）の知識を系統立てて整理できる。	
回数	45	04) 建築施工（各部工事・仕上げ工事）の知識を系統立てて整理できる。	
必修・選択	必修	05) 施工管理法における施工計画の知識を系統立てて整理できる。	
省庁分類	-	06) 施工管理法における工程管理の知識を系統立てて整理できる。	
授業形態	講義	07) 施工管理法における品質管理の知識を系統立てて整理できる。	
作成者	野上 和裕	08) 施工管理法における安全管理の知識を系統立てて整理できる。	
教科書	2級建築施工管理技士 学科テキスト	09) 建築法規（建築基準法・建設業法）の知識を系統立てて整理できる。	
確認者	野上 和裕	10) 建築関連法規（労働基準法・労働安全衛生法・環境保全関係法・その他の法律）の知識を系統立てて整理できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。		

No	3034203	科目コード	1032002
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：二級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：二級建築士試験の学科Ⅱ「法規」と学科Ⅲ「構造」は、繰り返し反復練習することで、理解度と共に考え方の手順が身に着きます。ここまでの知識で特に反復が必要な内容を抽出し早期から学習します。	
期	4		
教科名	建築士総合講座	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築士総合講座1	01) 分野Ⅱ（法規）：法令集の引き方とマーカーの意味、内容の読み取りができる。	
単位	2	02) 分野Ⅱ（法規）：面積・高さ等の計算ができる。	
履修時間	30	03) 分野Ⅱ（法規）：用途地域など別表2の読み取りが正確にできる。	
回数	15	04) 分野Ⅱ（法規）：容積率・建蔽率等の計算ができる。	
必修・選択	必修	05) 分野Ⅱ（法規）：適切な高さ制限の計算ができる。	
省庁分類	-	06) 分野Ⅲ（構造）：力のつりあい計算ができる。	
授業形態	講義	07) 分野Ⅲ（構造）：反力計算ができる。	
作成者	野上 和裕	08) 分野Ⅲ（構造）：静定構造の応力計算ができる。	
教科書	2級建築士 過去7年問題集	09) 分野Ⅲ（構造）：応力度計算ができる。	
確認者	野上 和裕	10) 分野Ⅲ（構造）：部材に生じる断面計算ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	建築士としての実務経験がある教員が、建築士として建築士試験に関する技術・知識を教える。		

No	3034204	科目コード	2030402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：これがでに学習した素案として、大規模複合建築の設計を行います。周辺環境を考慮した5000㎡以上の設計課題に取り組み、地域性を意識した提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。	
期	4		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習9	01) 自分の興味がある建築について調べ、事例を読み解き、必要な要素を抽出することができる。	
単位	1	02) 建築物について、同規模となる事例を調べ、必要な諸室や面積割合を計算し、自分の設計条件が適切に判断できる。	
履修時間	30	03) 建築物の計画地の候補を調べ、実情として求められている建築物なのかを判断できる。	
回数	15	04) 計画地の役所に赴き、計画に関わる法令・条例を調査し、一覧にまとめ活用できる。	
必修・選択	必修	05) コンセプトをまとめ、構造・法規を意識した設計を行い、条件をクリアしているかを判断できる。	
省庁分類	31.①建築設計製図	06) 周辺を含めた敷地図を作成し、敷地内の動線や区分けなどが適切に判断できる。	
授業形態	実習	07) 設計条件に即したゾーニングを行い、設計条件に即した各階平面図を作図できる。	
作成者	野上 和裕	08) 立面図・断面図を作図し、高さを表現できる。	
教科書	-	09) 必要に応じて、様々な図面を描きたし、相手に伝える図面を作図できる。	
確認者	野上 和裕	10) 各種図面をCADにて作図し、図面一式をまとめ、印刷後尺度や線分が適切に自己チェックできる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【40点】＋毎週の課題提出により【30点】＋最終完成作品の提出により【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	設計の実務経験がある教員が、複合建築に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。		

No	3034205	科目コード	2040702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2024年度		
学年	2年次	学習内容：4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	
期	4		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト7	01) 問題解決に向け、計画書(企画書)にそって計画を実行することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、仲間と協力して行動することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、粘り強く取り組むことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録・報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、技術者として計画の進捗状況から新たな問題点を発見することができる。	
作成者	白井雅哲	08) 問題解決に向け、新たな問題点の解決策を筋道をたてて(論理的に)考えることができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、新たな問題点の修正案を立案することができる。	
確認者	野上 和裕	10) 問題解決に向け、修正案を実行することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考	建築に関わる幅広い実務経験がある教員が、問題解決に合わせた実務的テクニックを教える。	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびレーダーチャート」を用いて記録する。	

No	3035201	科目コード	1031402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築各部の積算ルール、並びに各部の名称を理解し、社会に出てから必要とされる積算方法を学ぶ事で、現場監督として必要な基礎力を身に付けることは重要です。	
年度	2024年度	学習内容：土工事・鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事から、仕上工事に渡る各部の名称と拾い出しのルールを理解し、各段階において何が求められ、どのように行動が必要かを学習します。	
学年	2年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	5		
教科名	建築積算	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築積算	01) 建築工事費の階層構造と、各区分（直接工事費・純工事費・工事原価・工事価格）がわかる。	
単位	2	02) 数量積算基準（設計・所要・計画）や、計測単位がわかる。	
履修時間	30	03) 基礎と基礎梁、柱と梁や床版・壁との取合い、内外仕上の各区分がわかる。	
回数	15	04) 根伐の数量積算方法について学ぶ。深さと法幅・余幅の関係や、根伐基準レベルの考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 床付け・砕石地業・捨てCONの計測や、埋戻し数量の積算方法がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) コンクリートの積算方法について学ぶ。鉄筋・鉄骨体積の割合や、開口部控除等がわかる。	
授業形態	講義	07) 型枠の積算方法について学ぶ。先と後の関係や、控除基準がわかる。	
作成者	片倉 啓太	08) 鉄筋の積算方法について学ぶ。各部名称、定着や余長、フックや継手等の配筋ルールがわかる。	
教科書	基準にもとづく建築積算入門	09) 仕上の各区分について理解をし、内法寸法の基準と控除項目がわかる。	
確認者	野上 和裕	10) 内装の天井・壁・床の積算ルール及び、開口部の構成を理解した上で積算ルールがわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。		

No	3035202	科目コード	1032102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：二級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要です。	
年度	2024年度	学習内容：二級建築士試験の学科Ⅰ（計画）とⅡ（法規）を各系統ごとに順序だてて復習・整理します。ここまでの2年間の知識を項目ごとにまとめることで建築という学問にまとめ上げ、知識・技術をもれなく学習します。	
学年	2年次		
期	5		
教科名	建築士総合講座	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築士総合講座2	01) 分野Ⅰ（計画）：建築史（世界・日本）の知識を整理し、アウトプットできる。	
単位	2	02) 分野Ⅰ（計画）：気候・熱・日射・湿度・空気・換気・日照・日影・採光の知識を整理し、アウトプットできる。	
履修時間	30	03) 分野Ⅰ（計画）：音の性質・音の強さ・音の大きさ・騒音・色彩の知識を整理し、アウトプットできる。	
回数	15	04) 分野Ⅰ（計画）：各建物に関する計画・細部計画・防火避難の知識を整理し、アウトプットできる。	
必修・選択	必修	05) 分野Ⅰ（計画）：空調・給排水衛生・消火・電気照明の知識を整理し、アウトプットできる。	
省庁分類	－	06) 分野Ⅱ（法規）：建築法規の基礎知識・用語の定義・建築基準法の各種手続き等の知識を整理し、適切に判断できる。	
授業形態	講義	07) 分野Ⅱ（法規）：採光換気・階段・防火規制・内装制限・階段・避難施設等の知識を整理し、適切に判断できる。	
作成者	野上 和裕	08) 分野Ⅱ（法規）：構造による規模・構造計算・木構造・鉄筋コンクリート造等の知識を整理し、適切に判断できる。	
教科書	2級建築士 過去7年問題集	09) 分野Ⅱ（法規）：道路・用途地域・容積率・建蔽率・高さ制限・防火・準防火等の知識を整理し、適切に判断できる。	
確認者	野上 和裕	10) 分野Ⅱ（法規）：建築士法・建設業法・その他関連法規等の知識を整理し、適切に判断できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	－		
備考	建築士としての実務経験がある教員が、建築士として建築士試験に関する技術・知識を教える。		

No	3035203	科目コード	1032202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：二級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要である。	
年度	2024年度	学習内容：二級建築士試験の学科Ⅲ（構造）とⅣ（施工）を各系統ごとに順序だてて復習・整理します。ここまでの2年間の知識を項目ごとにまとめることで建築という学問にまとめ上げ、知識・技術をもれなく学習します。	
学年	2年次		
期	5		
教科名	建築士総合講座	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築士総合講座3	01) 分野Ⅲ（構造）：力のつりあい・反力・静定梁・静定ラーメン・静定トラスの知識を整理し、適切に計算できる。	
単位	2	02) 分野Ⅲ（構造）：応力度・断面の設計・不静定構造の知識を整理し、適切に計算できる。	
履修時間	30	03) 分野Ⅲ（構造）：荷重・地盤・基礎・構造設計等の知識を整理し、アウトプットできる。	
回数	15	04) 分野Ⅲ（構造）：各種構造（木造・RC造・S造・特殊構造）等の知識を整理し、アウトプットできる。	
必修・選択	必修	05) 分野Ⅲ（構造）：各種材料（木材・コンクリート・金属・その他の材料）等の知識を整理し、アウトプットできる。	
省庁分類		06) 分野Ⅳ（施工）：施工計画・施工管理等の知識を整理し、アウトプットできる。	
授業形態	講義	07) 分野Ⅳ（施工）：工事準備・仮設・土工事・基礎工事・鉄筋工事・型枠等の知識を整理し、アウトプットできる。	
作成者	野上 和裕	08) 分野Ⅳ（施工）：コンクリート工事・鉄骨工事・組積工事・木工事等の知識を整理し、アウトプットできる。	
教科書	2級建築士 過去7年問題集	09) 分野Ⅳ（施工）：各種工事（防水・屋根・左官・タイル・石・塗装・建具・内装・設備・外装）等の知識を整理し、アウトプットできる。	
確認者	野上 和裕	10) 分野Ⅳ（施工）：施工機械・積算・測量・契約・仕様書等の知識を整理し、アウトプットできる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	建築士としての実務経験がある教員が、建築士として建築士試験に関する技術・知識を教える。		

No	3035204	科目コード	2030502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	303. 建築科	必要性：建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。	
年度	2024年度	学習内容：前の期に引き続き、大規模複合建築の設計に取り組み、地域性を加味した提案内容を選定敷地に合わせた法規、規模や用途に合わせた構造、利便性を考えた設備を検討し、施工を意識した図面として仕上げます。	
学年	2年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	5		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習10	01) 4期課題の整理と各自の図面のチェックを行い、構造・法規ともに適切かどうか判断できる。	
単位	1	02) 設計条件・敷地条件を整理し、コンセプトの合わせたレイアウトとなるように仮レイアウトが作成できる。	
履修時間	30	03) プレゼンボードを設定し、各種図面を適切な縮尺でレイアウトし、仮印刷し、図面尺度が適切かどうか判断できる。	
回数	15	04) 模型・3Dモデリングに合わせて2D図面を適切に作り替えできる。	
必修・選択	必修	05) 3DCADにおいて、コンセプトに合わせたモデリングが行え、適切なマテリアルが設定できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 3DCADにおいて、レイアウトに合わせたカメラアングルやレンダリングが行え、適切な画像が準備できる。	
授業形態	実習	07) 模型において、適切な尺度にて部材を切り出し、組み立てができる。	
作成者	野上 和裕	08) 模型において、素材や周辺環境を作り込み、適切な範囲で写真撮影ができる。	
教科書	-	09) プレゼンボードの適切な位置に各種素材を配置し、設計の特徴が伝わる表現ができる。	
確認者	野上 和裕	10) プレゼンボードを利用し、他人に自分の考えを説明できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【60点】＋最終完成作品の提出により【40点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	設計の実務経験がある教員が、複合建築に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。		

No3035205		科目コード2030802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由
科	303. 建築科	必要性：二級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要です。 学習内容：二級建築士試験の実技（製図）に対応するため、木造とRC造、S造の基礎的な設計・製図を復習・整理します。ここまでの2年間の知識を設計製図にてまとめることで、知識と技術の確認を行いもなく学習します。
年度	2024年度	
学年	2年次	
期	5	
教科名	建築士総合講座	
科目名	建築士総合講座4	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目
単位	1	01) 設計条件を読み取り、求められている内容を正確に整理できる。 02) 設計条件を読み取り、求められている規模・構造種別を正確に把握できる。 03) 設計条件を読み取り、求められている必要諸室・そのサイズを正確に理解し、エスキースできる。 04) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした配置図/各階平面図が作図できる。 05) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面図/立面図が作図できる。 06) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面詳細図/矩計図/部材リストが作図できる。 07) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした床伏図/小屋伏図が作図できる。 08) 設計製図に合わせた設計コンセプトが文章としてまとめ決められた文字数で作文できる。 09) 設計製図に合わせて、凡例や部材リストとして一覧に、条件に合わせた書き込みができる。 10) 設計製図に合わせて、必要な面積を求め、面積表として書き込みができる。
履修時間	30	
回数	15	
必修・選択	必修	
省庁分類	-	
授業形態	実習	
作成者	野上 和裕	
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト	
確認者	野上 和裕	
最終確認者	井坂 昭司	
実務教員	○	評価方法 前半課題の提出により【50点】＋後半課題の提出により【50点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。
該当DP	-	
備考	建築士としての実務経験がある教員が、建築士試験に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。	

No3035206		科目コード2040802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由
科	303. 建築科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。 学習内容：5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います。
年度	2024年度	
学年	2年次	
期	5	
教科名	リアルジョブプロジェクト	
科目名	リアルジョブプロジェクト8	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目
単位	1	01) 問題解決に向け、問題点を発見し必要に応じて計画を修正することができる。 02) 問題解決に向け、修正した計画を実行することができる。 03) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。 04) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録することができる。 05) 問題解決に向け、最後まで仲間と協力して行動することができる。 06) 成果報告に向け、問題の発見から解決までに作成してきた資料を整理することができる。 07) 成果報告に向け、資料に基づき、問題解決に取り組む意義、方法、成果等を報告書にまとめることができる。 08) 成果発表に際し、筋道立ったわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。 09) 成果発表に際し、聴衆を引き付けるプレゼンテーションを行うことができる。 10) 成果発表を終え、問題点・不足点・今後の課題等を整理・報告することができる。
履修時間	30	
回数	15	
必修・選択	必修	
省庁分類	-	
授業形態	実習	
作成者	白井 雅哲	
教科書	-	
確認者	野上 和裕	
最終確認者	井坂 昭司	
実務教員	○	評価方法 ①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。 ③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。
該当DP	-	
備考	建築に関わる幅広い実務経験がある教員が、問題解決に合わせた実務的テクニックを教える。	